

# 業 務 活 動

概況.....	2
内容.....	3

## 業 務 活 動

### 概 況

九州大学健康科学センターは、①健康に関する科学的  
研究を行い、②自立した個人の健康の維持・増進を目的  
として健康教育を行い、③大学構成員である学生ならび  
に教職員に対して健康支援を行っている。健康科学セン  
ター第 2 部門（健康医学・心理学）の教員の多くは平成  
16 年度の大学の独立行政法人化以降、環境安全衛生推進  
室のスタッフも兼務しており産業衛生活動の比重が年々  
増大している。

平成 24 年度も、健康科学第 2 部門の教員（教授（定員）  
3 名ならびに准教授 6 名（欠員 1 名））と、技術職員であ  
る保健師・看護師（定員 3 名、有期雇用者 5 名）と環境安  
全衛生推進室に所属する 3 年雇用の産業保健師 3 名が学  
生ならびに教職員の健康支援業務に当たった。

学生の定期健康診断は、例年通り毎年 4 月に 3 週間にわ  
たり全学生を対象として病院地区で実施した。第 2 部門  
の医系教員と保健師・看護師のスタッフ全員が協力し、  
例年通り多くのアルバイトを雇用して行った。新入留学  
生のための健診も春秋の 2 回実施した。また、新入生に対  
する面接を、健診時に行った健康調査（健康支援パッケー  
ジなど）をもとに 5 月に実施した。教職員の定期健康診  
断は、健セと環境安全衛生推進室が共同で計画し、一次  
健診は従来通り外注により 6 月から各事業場で実施した  
のち、二次健診や健康相談は健セと環境安全衛生推進室  
が協力して実施した。

健康教育は低年次学部生に対して健康科学Ⅰと健康科  
学Ⅱを伊都地区センターゾーンで、高年次学部生に対し  
て心理健康学（体験で学ぶコミュニケーションと心の健  
康）と応用健康学を箱崎地区で、また大学院生に対して  
は「大学院生のための人間教育」を筑紫地区で開講し、  
第 2 部門のほぼ全員の教員が担当した。また大橋地区で  
は「生体ストレス人類学特論」を例年通り開講した。学  
生による講義評価も全学に先駆けて毎年行ってきたが、  
昨年度からは全学的な評価シートに従って行っている。  
教職員に対しては、従前通り、10 月の健康週間をはじめ人  
事課が企画する様々な研修会の講師を務めた。また、学内  
の FD また学外からの講師依頼にも例年通りもれなく応

じた。さらに今年度も、保健師・看護師が生活習慣病のリ  
スクのある学生や教職員に対する栄養・生活指導（ウェ  
ルカムプログラムおよびリフレッシュプログラム）を行  
い、そのための実施計画の指導や研修を教員が行った。

日常の健康支援業務は、計 6 つのキャンパス（事業場と  
して 7 つ）に設置している分室（健康相談室）におい  
て行なわれ、来室者の比率も年々学生（院生や留学生を含  
む）より教職員の方が大きくなって来ている。日常の健  
康支援業務では、学生および教職員に対するプライマリ  
ーケアを重視している。福岡地区の 6 つのキャンパスの  
それぞれにある健康科学センターの分室において、内科  
医師による一般健康相談と診療、精神科医師による精神  
保健相談と診療、心療内科医師による両分野の相談と診  
療、ならびに臨床心理士による心理相談、さらには保健  
師・看護師による保健相談を行った。

日常健康支援業務や健康診断業務については、年間計  
画のもと、教員・技術職員・事務職員で構成される学生と  
教職員のための健康支援会議を毎月開催し、各担当者や  
各分室からの課題を討議しつつ、情報を共有化し対策決  
定を行っている。また、教員の共通理解と資質向上のため  
に FD としての教員研修会を技術職員（保健師や看護師）  
に対する教育に拡大した形で毎月 1 回行っている。

医師である教員は、産業医として教職員に対する産業  
保健活動を行っているが、具体的には 休職・復職の判定、  
労災二次健診受診者や長時間労働者の面接、裁量労働の  
該当者に対する判定業務など個別の対応をこなし、各事  
業場の毎月の安全衛生委員会に出席し、また月例の職場  
巡視を行っている点が徐々に学内でも認知されつつある。

全学的な要請に応じて、当センターでも①外部資金獲  
得の増加と研究強化、②伊都地区での拠点化の加速と推  
進を検討しつつあるが、部局活性化制度と人件費ポイン  
ト制度の影響から組織全体を見直す時期に差し掛かって  
いることも事実である。

（文責：丸山 徹）

## 1. 一般健康相談

## 1) 伊都地区センターゾーン分室

伊都地区センターゾーンでは、学部1年、2年生（前期のみ）と、比較社会文化学府および数理学府の大学院生が学んでいる。

伊都センターゾーン分室の健康相談・健康教育は、前述の学生および教職員を対象とし、健康科学センター教員である医師4名（一宮・丸山・永野・眞崎）、看護職2名（野村・三谷）、事務職員1名（田川）と非常勤医師3名（内科医：佐々木悠医師、尾前豪医師、精神科医：川島範子医師）が行った。

平成24年度の来室者数は学部生3,479名、大学院生305名、教職員425名で、その他も含めると延べ4,295名の利用があった（表1）。

利用者は例年通り4～6月に集中している。この時期には、学生定期健康診断の2次検査（健診フォロー786名）や新入生面接（177名）を実施しており（表1,4）、利用

者の8割以上を学生が占めている。平成24年度より、健康支援プログラムの対象学年を学部3・5年と修士1年に限定したことにより、プログラムの来室者数が大幅に減少したが、その分、参加者への対応を充実することができた。

教職員は、健康診断事後措置、産業医面談のほか、血圧や体重などの定期的な測定による利用もあった。

内科系の相談は、感冒が最も多く（表2）、外科系の相談は、例年と同様、創傷・擦過傷と捻挫・打撲が主である（表3）。全学教育科目の健康・スポーツ科目を履修中の外傷や課外活動中の受傷、化学実験中の外傷が含まれている。また、伊都地区への通学手段は公共交通機関が限られるため、雨天や強風時でも自転車やバイクを利用する学生も多く、転倒事故も多かった。

（文責：一宮 厚，野村 桃子）

表1 来室者状況

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
学部生	2020	500	695	264	3479	81.0%
修士	110	43	54	44	251	5.8%
博士	19	8	24	3	54	1.3%
教職員	123	128	98	76	425	9.9%
研究生他	20	7	12	10	49	1.1%
その他	13	16	7	1	37	0.9%
計	2305	702	890	398	4295	100.0%

表2 疾病別利用者数（内科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
感冒	228	49	129	46	452	60.7%
上部消化管	19	6	16	6	47	6.3%
下部消化管	20	3	13	3	39	5.2%
頭痛	13	4	12	5	34	4.6%
その他	64	36	53	20	173	23.2%
計	344	98	223	80	745	100.0%

表3 疾病別利用者数（外科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
創傷・擦過傷	79	49	42	20	190	45.6%
打撲・捻挫	85	26	46	12	169	40.5%
熱傷	8	3	2	0	13	3.1%
腰痛	5	2	3	0	10	2.4%
その他	21	7	4	3	35	8.4%
計	198	87	97	35	417	100.0%

表 4 疾病別利用者数（内科・外科以外）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
健康相談	37	5	17	4	63	1.8%
禁煙相談	0	2	20	10	32	0.9%
眼科	27	6	8	1	42	1.2%
皮膚科	39	22	17	10	88	2.6%
耳鼻科	9	8	6	2	25	0.7%
歯科	5	1	4	0	10	0.3%
婦人科	9	4	10	5	28	0.8%
健診フォロー	786	119	96	50	1051	30.7%
身体計測	365	211	264	112	952	27.8%
血圧測定	123	63	70	44	300	8.8%
保健コース	5	0	0	0	5	0.1%
新入生面接	177	0	0	0	177	5.2%
その他	163	67	61	38	329	9.6%
産業医面談	14	17	11	15	57	1.7%
心理・精神相談	94	56	54	33	237	6.9%
健康診断証明書	19	5	1	4	29	0.8%
計	1872	586	639	328	3425	100.0%

表 5 処置

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
診察	369	96	128	61	654	13.2%
与薬	316	84	133	31	564	11.4%
消毒	62	35	42	19	158	3.2%
休養室	74	31	78	27	210	4.2%
病院紹介	112	33	52	26	223	4.5%
心理的対応	193	51	46	30	320	6.4%
その他	1531	475	566	267	2839	57.1%
計	2657	805	1045	461	4968	100.0%

表 6 心理・精神相談内訳（再掲）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
心理相談	7	0	1	1	9	3.8%
精神保健相談(医師)	57	31	33	22	143	60.3%
精神保健相談(看護職)	22	17	15	7	61	25.7%
リトリート	0	0	0	0	0	0.0%
ホテイトーク	0	0	0	0	0	0.0%
キャリアライフ等	0	0	0	0	0	0.0%
電話相談(医師)	0	0	2	1	3	1.3%
電話相談(カウンセラー)	0	0	0	0	0	0.0%
電話相談(看護職)	8	8	3	2	21	8.9%
電話相談計	8	8	5	3	24	10.1%
計	94	56	54	33	237	100.0%

## 2) 伊都地区ウエストゾーン分室

平成 24 年度の伊都地区ウエストゾーン分室の利用者は、主として工学系の学生と職員であった。学生の多くは実験・研究に従事しているが、取り扱う化学薬品等の種類が多岐に渡ることで、大型クレーンや旧型の実験器具を設置した部屋が多いこと、酸素欠乏作業の危険のある部屋の存在、健康影響について未知の新素材開発に携わる研究室の存在、その一方で、これらの管理や対策が必ずしも徹底されていない研究室等が存在することなど、教職員と共有する課題が少なくない。自然環境に恵まれたキャンパスは、修学、研究、生活支援の施設が充実してきている一方、キャンパス周辺には飲食店に乏しく、スーパー型の小売店が無いなどの不便があり、書店や遊興施設等いわゆる息抜きができる環境も不十分である。また、徒歩圏に医療機関が無いため、幅広い一次医療への対応が分室に求められる状況も依然として続いている。

平成 24 年度のスタッフは、健康科学センターの教員 5 名（一宮、福盛、眞崎、松下、永野）、非常勤医師 2 名（佐々木、川嶋）、非常勤カウンセラー 1 名（中園）と看護職員 2 名（木村／穴見、高尾）、事務職員 1 名（高尾／福川）であった。「／」は年度途中で退職にともなう職員の交代を示

すが、担当者の努力により引き継ぎはスムーズに行われたと言える。来室者総数は 5,670 人と前年度（6,123 人）よりやや減少した。内訳を見ると（表 1～表 4、表 6）、内科系では感冒、外科系では外傷による受診がそれぞれ減少している。一方、心理相談が増加しているが、これは需要が増えたというよりは、昨年度予測した通り、新任カウンセラー教員（松下）の着任により供給が充実したことによるものと見るべきであろう。利用者区分では、学生の利用者数は前年度と比べて大きな違いはない一方、教職員の利用者が 1,383 人から 1,121 人へと減少し、全体に占める割合も 20%を割っている。また、学生・職員の利用者に占める留学生・外国人の割合が着実に増加している感がある。

今後も潜在的に増加傾向にある需要に応えるため、これらに対応できる医師やカウンセラーの充実を引き続きはかっていく必要がある。

（文責：永野 純）

表 1 来室者状況

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
学部生	450	326	539	225	1540	27.1%
修士	688	602	621	341	2252	39.7%
博士	165	132	192	122	611	10.8%
教職員	280	300	323	218	1121	19.8%
研究生他	14	5	42	23	84	1.5%
その他	24	13	14	11	62	1.1%
計	1621	1378	1731	940	5670	100.0%
留学生（再掲）	137	97	153	76	463	

表 2 疾病別利用者数（内科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
感冒	85	46	191	85	407	73.6%
上部消化管	11	8	11	6	36	6.5%
下部消化管	6	3	3	6	18	3.3%
頭痛	16	8	7	3	34	6.1%
その他	12	16	13	17	58	10.5%
計	130	81	225	117	553	100.0%

表 3 疾病別利用者数（外科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
創傷・擦過傷	50	35	35	19	139	51.9%
打撲・捻挫	14	19	17	7	57	21.3%
熱傷	9	8	5	3	25	9.3%
腰痛	12	2	5	2	21	7.8%
その他	4	8	11	3	26	9.7%
計	89	72	73	34	268	100.0%

表 4 疾病別利用者数（内科・外科以外）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
健康相談	17	19	15	10	61	0.9%
禁煙相談	3	9	20	4	36	0.5%
眼科	12	5	1	3	21	0.3%
皮膚科	14	15	12	3	44	0.6%
耳鼻科	4	0	4	3	11	0.2%
歯科	1	3	1	3	8	0.1%
婦人科	4	3	2	9	18	0.3%
健診フォロー	350	122	144	50	666	9.6%
身体計測	603	774	752	364	2493	35.9%
血圧測定	514	634	637	295	2080	29.9%
保健コース	0	0	0	0	0	0.0%
新入生面接	0	0	0	0	0	0.0%
その他	126	70	224	77	497	7.2%
産業医面談	24	23	38	27	112	1.6%
心理・精神相談	205	162	223	215	805	11.6%
健康診断証明書	49	11	8	22	90	1.3%
計	1926	1850	2081	1085	6942	100.0%

表 5 処置

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
診察	171	108	393	178	850	13.1%
与薬	122	97	223	128	570	8.8%
消毒	35	19	12	4	70	1.1%
休養室	30	25	36	26	117	1.8%
病院紹介	56	41	56	31	184	2.8%
心理的対応	195	138	196	181	710	11.1%
その他	1207	1051	1116	589	3963	61.3%
計	1816	1479	2032	1137	6464	100.0%

表 6 心理・精神相談内訳（再掲）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
心理相談	114	102	138	127	481	59.8%
精神保健相談(医師)	48	39	67	74	228	28.3%
精神保健相談(看護職)	23	14	9	4	50	6.2%
リポート	4	1	0	0	5	0.6%
ホドイトーク	0	0	0	0	0	0.0%
キャリアライフ等	0	0	0	0	0	0.0%
電話相談(医師)	1	3	3	2	9	1.1%

電話相談(カウンセラー)	7	1	5	4	17	2.1%
電話相談(看護職)	8	2	1	4	15	1.9%
電話相談計	16	6	9	10	41	5.1%
計	205	162	223	215	805	100.0%

#### 4) 箱崎地区分室

箱崎地区分室の健康相談は、健康科学センター教員 6 名（医師：上園・一宮・丸山・入江，カウンセラー：福盛・松下）・医学部からの非常勤医師 4 名（精神科 平岡・第 3 内科 山本・心療内科 高倉・古川）・非常勤カウンセラー 5 名（佐々木・吉永・高野・斉藤・太田）・保健師 3 名（松園・竹下・宮川\*，いずれも学生相談・精神相談，産業保健を兼務）・事務職員 2 名（安藤・原）で担当した。

全体でのべ 6,389 名（前年度 6,878 名）が利用した。依然来室者は多い。来室者の身分（表 1）は、学生が約 62%，教職員が約 26%であった。目的・症状別に見ると、例年同様、内科的症状（表 2）は感冒症状が圧倒的で、外科的相談（表 3）は外傷や打撲・捻挫が多かった。内科・外科以外（表 4）では、健診後の再検査などのフォローや体重・体脂肪・血圧の自己測定が多い。また、産業医による面談は 633 名（前年度 455 名，前々年度 353 名）と年々増えている。処置（表 5）では、診察・投薬が多い。

心理・精神相談は、2,819 名であった。このうち、心理相談は 1,059 名で前年度と変わらなかった。精神相談は 837 名（前年度 656 名，前々年度 567 名）と年々増えており、産業医によるメンタル不調者への対応が増えていることがわかる。学生の相談では、指導教員からの勧めで来室するものが増え、それに伴う関係者との面談が増えている。同様に、教職員でも上司や同僚による産業医への相談があり、関係者の相談が増えている。

箱崎分室では、多目的室ウィズルームやロビーで、細やかな心くばりの健康教室を実施中であり、好評である。留学生の来室者も相変わらず多い。

\*宮川ミチコ保健師は職場環境室所属であるが、箱崎地区分室に常駐し、健セ教職員と協力して活動した。

（文責：一宮 厚，松園 美貴，竹下 恵梨）

表 1 来室者状況

	4～6 月計	7～9 月計	10～12 月計	1～3 月計	総計	%
学部生	451	371	420	337	1579	24.7%
修士	532	292	268	234	1326	20.8%
博士	193	158	174	148	673	10.5%
教職員	424	457	481	333	1695	26.5%
研究生他	87	103	88	91	369	5.8%
その他	155	168	208	216	747	11.7%
計	1842	1549	1639	1359	6389	100.0%
留学生（再掲）	162	124	151	130	567	

表 2 疾病別利用者数（内科）

	4～6 月計	7～9 月計	10～12 月計	1～3 月計	総計	%
感冒	88	39	123	69	319	61.2%
上部消化管	13	9	12	16	50	9.6%
下部消化管	8	11	9	12	40	7.7%
頭痛	9	1	7	5	22	4.2%
その他	22	25	26	17	90	17.3%
計	140	85	177	119	521	100.0%

表 3 疾病別利用者数（外科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
創傷・擦過傷	48	34	19	19	120	53.3%
打撲・捻挫	21	7	17	12	57	25.3%
熱傷	6	9	6	1	22	9.8%
腰痛	3	2	1	0	6	2.7%
その他	9	4	1	6	20	8.9%
計	87	56	44	38	225	100.0%

表 4 疾病別利用者数（内科・外科以外）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
健康相談	22	18	32	11	83	1.3%
禁煙相談	7	7	21	2	37	0.6%
眼科	13	10	9	4	36	0.6%
皮膚科	21	34	22	15	92	1.4%
耳鼻科	8	4	8	10	30	0.5%
歯科	5	4	4	5	18	0.3%
婦人科	14	15	9	4	42	0.6%
健診フォロー	498	291	236	64	1089	16.6%
身体計測	157	141	162	92	552	8.4%
血圧測定	139	106	128	87	460	7.0%
保健コース	0	0	0	0	0	0.0%
新入生面接	0	0	0	0	0	0.0%
その他	151	127	113	128	519	7.9%
産業医面談	135	157	162	179	633	9.7%
心理・精神相談	620	664	736	799	2819	43.1%
健康診断証明書	55	35	15	27	132	2.0%
計	1845	1613	1657	1427	6542	100.0%

表 5 処置

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
診察	335	300	397	384	1416	18.3%
与薬	123	82	145	135	485	6.3%
消毒	48	43	26	22	139	1.8%
休養室	24	37	32	9	102	1.3%
病院紹介	105	80	99	67	351	4.5%
心理的対応	592	638	712	743	2685	34.8%
その他	923	665	596	360	2544	33.0%
計	2150	1845	2007	1720	7722	100.0%

表 6 心理・精神相談内訳（再掲）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
心理相談	242	243	281	293	1059	37.6%
精神保健相談(医師)	179	193	208	257	837	29.7%
精神保健相談(看護職)	24	9	12	37	82	2.9%
リトリート	151	190	206	186	733	26.0%
ボディーワーク	6	11	9	10	36	1.3%
キャリアライフ等	0	0	0	0	0	0.0%
電話相談(医師)	2	3	4	3	12	0.4%
電話相談(カウンセラー)	7	11	10	9	37	1.3%



電話相談(看護職)	9	4	6	4	23	0.8%
電話相談計	18	18	20	16	72	2.5%
計	620	664	736	799	2819	100.0%

#### 4) 病院地区分室

病院地区分室は、医歯薬系の学生や教職員以外に、九州大学病院の職員の健康管理も担当しており、平成 17 年度から病院地区の専属産業医（九州大学病院を除く）となった入江が分室長を務めている。病院の建て替えに伴い、平成 19 年 12 月に旧九州大学病院歯科医療センターに移転した。

平成 24 年度の病院地区分室の一般健康相談（診療を含む）は、健康科学センター教員の入江（医歯薬系の専属産業医を兼任）、丸山（九州大学病院専属産業医を兼任）、ならびに非常勤内科医師 5 名、保健婦 1 名（戸田）と看護師 1 名（田中）が行った。精神保健相談は、心療内科医の入江と精神科医の一宮、非常勤精神科医が担当し、心理相談は、基本的に学生に対しては、非常勤の臨床心理士の中園照美先生、教職員に対しては磯貝希久子先生にそれぞれ週一日担当して頂いた。また、年度の途中から新たに松下が担当に加わった。その他、平成 20 年度から安全衛生推進室所属の産業保健師の体制も強化されることになり、教職員の健診や健康管理業務の企画や運営などの中核的役割を担う病院地区は 2 名に増員された。平成 23 年度は、上田、藤野が従事した。

平成 24 年度の病院地区分室の来室者数は、学部生 593 名、大学院生 422 名、教職員 2,840 名、研究生 24 名で、その他を含めると総計 3,976 名であった。平成 23 年度（総計 4,011 名）と比べて来室者数がわずかに減少した。学生の来室が減ったことによるものであったが、教職員の来室は逆に増加した。

教職員の来室者数は、平成 16 年度の 546 名から平成 17 年度 941 名、平成 18 年度 1,287 名、平成 19 年度 1,405

名、平成 20 年度 1,605 名と増加の一途を辿っていたのが、平成 21 年度は 1,440 名に減少した。これは、一時的に移転した場所が手狭であったため、面談件数を制限したことによる。平成 22 年度は 2,440 名と再度増加傾向に転じ、平成 23 年度は 2,484 名、平成 24 年度は 2,840 名と過去最多を記録した。平成 16 年度からの大学法人化前と比べると、教職員の来室者数は 5 倍以上となっている。大学法人化以降、教職員を対象とした健康診断事後措置や長時間労働者面接、心理・健康相談などの産業保健活動が充実してきていることや、後述するようなメンタルヘルス不調者が法人化を境に増加しているためである。

利用者数を疾患別にみると、内科系が 129 名（平成 23 年度 185 名）、外科系が 54 名（同 56 名）、内科・外科系以外が 4,409 名（同 4,419 名）であり、内科系が減少した。一方、心理・精神相談は、前年の 1,189 名から 1,585 名へと著しく増加している。臨床心理士による心理相談（300 名から 391 名へ）、医師や看護職による精神保健相談（884 名から 1,175 名へ）、いずれの場合も同様である。平成 16 年度の心理・精神相談件数が 96 名であったことを考慮すると、実に約 17 倍もの極めて著しい増加であり、病院地区におけるメンタルヘルス不調者数の増加や対応件数の増加を示している。

ちなみに、平成 24 年度は、精神神経科の中尾智博医師、第二内科の黒田淳哉医師、梅野淳嗣医師、医療経営管理学の馬場園明医師、桑原一彰医師、臨床薬理学の笹栗俊之医師に非常勤医師を依頼した。

（文責：入江 正洋、戸田 美紀子、田中 朋子）

表 1 来室者状況

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
学部生	282	109	118	84	593	14.9%
修士	66	36	42	41	185	4.7%
博士	109	57	26	45	237	6.0%
教職員	733	757	814	536	2,840	71.4%
研究生他	7	3	8	6	24	0.6%
その他	26	26	20	25	97	2.4%
計	1,223	988	1,028	737	3,976	100.0%

表 2 疾病別利用者数（内科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
感冒	17	7	28	11	63	48.8%
上部消化管	4	3	7	2	16	12.4%
下部消化管	1	2	3	2	8	6.2%
頭痛	4	1	3	2	10	7.8%
その他	14	4	7	7	32	24.8%
計	40	17	48	24	129	100.0%

表 3 疾病別利用者数（外科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
創傷・擦過傷	7	4	10	3	24	44.4%
打撲・捻挫	8	1	3	1	13	24.1%
熱傷	2	2	0	1	5	9.3%
腰痛	2	0	2	1	5	9.3%
その他	3	2	1	1	7	13.0%
計	22	9	16	7	54	100.0%

表 4 疾病別利用者数（内科・外科以外）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
健康相談	6	8	8	0	22	0.5%
禁煙相談	0	65	73	1	139	3.2%
眼科	3	1	1	3	8	0.2%
皮膚科	3	2	4	7	16	0.4%
耳鼻科	4	2	0	1	7	0.2%
歯科	5	2	2	7	16	0.4%
婦人科	0	0	1	0	1	0.0%
健診フォロー	633	380	358	131	1,502	34.1%
身体計測	58	8	24	24	114	2.6%
血压測定	29	16	8	17	70	1.6%
保健コース	0	0	0	0	0	0.0%
新入生面接	0	0	0	0	0	0.0%
その他	8	3	9	16	36	0.8%
産業医面談	145	213	192	208	758	17.2%
心理・精神相談	316	377	443	449	1,585	35.9%
健康診断証明書	77	31	7	20	135	3.1%
計	1,287	1,108	1,130	884	4,409	100.0%

表 5 処置

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
診察	220	283	266	269	1,038	21.7%
与薬	29	31	65	8	133	2.8%
消毒	8	5	12	3	28	0.6%
休養室	6	4	11	9	30	0.6%
病院紹介	28	26	26	34	114	2.4%
心理的対応	292	354	421	429	1,496	31.3%
その他	808	477	447	209	1,941	40.6%
計	1,391	1,180	1,248	961	4,780	100.0%

表 6 心理・精神相談内訳（再掲）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
心理相談	102	99	89	101	391	24.7
精神保健相談(医師)	145	179	192	214	730	46.1
精神保健相談(看護職)	66	93	155	131	445	28.1
リポート	0	0	0	0	0	0.0
ボディートーク	0	0	0	0	0	0.0
キャリアワフ等	0	0	0	0	0	0.0
電話相談(医師)	1	4	4	0	9	0.6
電話相談(カウンセラー)	2	1	2	2	7	0.4
電話相談(看護職)	0	1	1	1	3	0.2
電話相談計	3	6	7	3	19	1.2
計	316	377	443	449	1,585	100.0

### 5) 大橋地区分室

大橋地区分室には、医師（内科）、保健師（看護師）が常時配置され、学生・教職員の心身の健康保持・増進を図るべく医療保健活動と健康支援活動を行っている。

また、非常勤であるがカウンセラーが配置され、学生・教職員のさまざまな相談にのっている。身体健康相談としては、風邪や腹痛などの一般内科疾患が大部分を占める。精神健康相談では、学業問題、進路問題、引きこも

りなどの相談が多い。学生・教職員が来室しやすい明るい雰囲気のセンターにするべく努力している。特に、学生の自殺対策として、指導教官と連絡が取れない学生、引きこもり学生、単位取得が非常に悪いに対して、メール・携帯等による呼びかけ、家族への連絡、下宿訪問などを精力的に行っている。

（文責：山本 和彦）

表 1 来室者状況

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
学部生	85	83	114	83	365	49.7%
修士	66	56	70	28	220	30.0%
博士	9	9	8	3	29	3.9%
教職員	27	20	20	20	87	11.8%
研究生他	3	6	8	2	19	2.6%
その他	5	5	1	4	15	2.0%
計	195	179	221	140	735	100.0%
留学生（再掲）	14	9	14	10	47	

表 2 疾病別利用者数（内科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
感冒	20	1	32	22	75	61.5%
上部消化管	0	1	4	0	5	4.1%
下部消化管	2	4	2	4	12	9.8%
頭痛	0	2	6	3	11	9.0%
その他	7	4	4	4	19	15.6%
計	29	12	48	33	122	100.0%

表 3 疾病別利用者数（外科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
創傷・擦過傷	6	0	7	3	16	30.8%
打撲・捻挫	5	11	6	2	24	46.2%
熱傷	2	0	0	1	3	5.8%
腰痛	0	0	0	1	1	2.0%
その他	2	2	2	2	8	15.4%
計	15	13	15	9	52	100.0%

表 4 疾病別利用者数（内科・外科以外）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
健康相談	2	1	0	0	3	0.5%
禁煙相談	0	6	16	1	23	3.6%
眼科	0	2	1	4	7	1.1%
皮膚科	5	3	2	1	11	1.7%
耳鼻科	2	0	0	0	2	0.3%
歯科	2	0	2	1	5	0.8%
婦人科	0	0	0	0	0	0.0%
健診フォロー	24	11	8	0	43	6.7%
身体計測	17	7	17	4	45	7.0%
血圧測定	22	9	22	2	55	8.6%
保健コース	0	0	0	0	0	0.0%
新入生面接	0	0	0	0	0	0.0%
その他	6	8	9	4	27	4.2%
産業医面談	1	2	5	0	8	1.3%
心理・精神相談	80	117	117	87	401	62.8%
健康診断証明書	5	2	1	1	9	1.4%
計	166	168	200	105	639	100.0%

表 5 処置

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
診察	41	36	76	55	208	21.8%
与薬	36	36	70	44	186	19.5%
消毒	10	0	4	1	15	1.6%
休養室	5	1	3	3	12	1.3%
病院紹介	11	7	2	5	25	2.6%
心理的対応	72	109	103	79	363	38.1%
その他	65	26	42	11	144	15.1%
計	240	215	300	198	953	100.0%

表 6 心理・精神相談内訳（再掲）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
心理相談	62	93	82	66	303	75.6%
精神保健相談(医師)	8	11	17	17	53	13.2%
精神保健相談(看護職)	5	3	6	0	14	3.5%
リトリート	0	0	0	0	0	0.0%
ボテイトーク	0	0	0	0	0	0.0%
キャラライブ等	0	0	0	0	0	0.0%
電話相談(医師)	4	2	9	3	18	4.5%
電話相談(カウンセラー)	1	8	3	1	13	3.2%
電話相談(看護職)	0	0	0	0	0	0.0%

電話相談計	5	10	12	4	31	7.7%
計	80	117	117	87	401	100.0%

## 6) 筑紫地区分室

筑紫地区の一般健康相談は、健康科学センター教員、眞崎、上園、丸山、入江、永野、一宮（精神保健相談）と保健師1名（濱田）、事務職員3名（高原、笹部、吉村）で行った。

平成24年度の来室者数は、学部生76名、大学院生771名、職員338名、研究生・その他38名を合わせると1,228名であった。平成23年度と比較して約300名減少している。これは健診事後措置での勧奨が変わり、自発的に参加する方しかプログラムに参加しなくなったことが影響していると思われる。

疾患別利用者数では、内科が67名、外科が67名、内科・外科以外が1,231名であった。内科・外科以外のうち一番多かったのは健診フォローが359名であった。前年度と比較して300名ほどの減少したことは、上記したように健診事後措置への自発的参加者が少ないことを示していると思われる。

来室者数は、今年の1,517名より上記の理由で減少した。内訳で検討すると、外科の利用者数はほぼ横ばいであるが、内科の利用者数が若干減少している。診療を担当する医師が会議などで休診にせざるを得ない状況が、平

成24年度は多かったことが影響していると思われる。疾患別で検討すると、心理・精神相談が今年の221名から179名になっており数としては減少している。これは、外の医療機関への紹介などでの減少も考えられるが、上記の診察時間の減少の可能性も考慮する必要がある。平成24年度は、産業医面談も減少している。

産業医面談の中にもメンタル不調を訴える学生に関する教員からの相談が含まれており、心理・精神相談にあがっていない、メンタル不調の相談も少なくない。今後ともメンタルヘルスに関する啓発を行っていく必要がある。

保健活動としては、生活習慣病の予防、メンタルヘルスに問題を持つ学生の支援を中心として行った。分室の役割は広く学生のプライマリ・ケアを行うことである。今までにも増して、分室で幅広い機能も充実させるとともに、地区内におけるFDの実施などメンタルヘルス面での対応の強化が望まれる。

（文責：眞崎 義憲、濱田 百合）

表1 来室者状況

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
学部生	4	9	31	32	76	6.2
修士	211	169	164	70	614	50
博士	47	51	38	21	157	12.8
教職員	86	97	96	59	338	27.5
研究生他	5	12	15	6	38	3.1
その他	1	1	1	2	5	0.4
計	354	339	345	190	1228	100

表2 疾病別利用者数（内科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
感冒	16	4	17	12	49	73.1
上部消化管	0	2	1	0	3	4.5
下部消化管	3	0	0	0	3	4.5
頭痛	2	1	1	0	4	6
その他	3	1	4	0	8	11.9
計	24	8	23	12	67	100

表 3 疾病別利用者数（外科）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
創傷・擦過傷	8	14	7	8	37	55.2
打撲・捻挫	5	3	4	1	13	19.4
熱傷	1	0	1	2	4	6
腰痛	2	0	0	3	5	7.5
その他	4	1	0	3	8	11.9
計	20	18	12	17	67	100

表 4 疾病別利用者数（内科・外科以外）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
健康相談	6	5	7	4	22	1.8
禁煙相談	9	19	54	14	96	7.8
眼科	6	1	1	1	9	0.7
皮膚科	6	7	1	1	15	1.2
耳鼻科	0	0	2	0	2	0.2
歯科	1	0	1	0	2	0.2
婦人科	2	0	2	0	4	0.3
健診フォロー	138	100	78	43	359	29.2
身体計測	26	85	99	31	241	19.6
血圧測定	27	21	60	27	135	11
保健コース	0	0	0	0	0	0
新入生面接	0	0	0	0	0	0
その他	52	36	18	19	125	10.2
産業医面談	1	4	0	2	7	0.6
心理・精神相談	30	53	50	46	179	14.5
健康診断証明書	22	5	5	3	35	2.8
計	326	336	378	191	1231	100

表 5 処置

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
診察	48	35	30	17	130	9.1
与薬	40	31	34	21	126	8.8
消毒	9	13	7	11	40	2.8
休養室	6	5	2	0	13	0.9
病院紹介	18	12	18	8	56	3.9
心理的対応	27	42	43	46	158	11.1
その他	271	260	254	116	901	63.3
計	419	398	388	219	1424	100

表 6 心理・精神相談内訳（再掲）

	4～6月計	7～9月計	10～12月計	1～3月計	総計	%
心理相談	14	26	25	24	89	49.7
精神保健相談(医師)	5	16	10	4	35	19.6
精神保健相談(看護職)	11	10	15	16	52	29.1
リトリート	0	0	0	0	0	0

ポディートク	0	0	0	0	0	0
キャリアライ等	0	0	0	0	0	0
電話相談(医師)	0	0	0	0	0	0
電話相談(カウンセラー)	0	0	0	0	0	0
電話相談(看護職)	0	1	0	2	3	1.7
電話相談計	0	1	0	2	3	1.7
計	30	53	50	46	179	100

## 2. 産業保健活動

### 1) 伊都地区センターゾーン事業場

伊都地区センターゾーン事業場の産業保健活動は、六本松を引き継ぎ一宮が嘱託産業医として担当している。引き続き教職員の相談件数はさほど多くなかった。

事業場の巡視・衛生委員会は年間を通して予定通り行われた。新しいキャンパスであるために主として屋外に安全面の問題を多く抱えている。自転車道などの整備がなされておらず交通問題は見過ごせない問題である。この地区は実験施設があるものの、その数は少なくまた大きな施設でもないため、巡視においても安全面の問題は殆どない。

(文責: 一宮 厚, 三谷 梨沙)

### 2) 伊都地区ウエストゾーン事業場

伊都地区ウエストゾーン事業場では、産業医永野と保健師高尾が毎月の職場巡視と安全・衛生委員会、ならびに健康診断および事後措置などの産業保健活動を担当した。

教職員の伊都地区ウエストゾーン分室への来室者は年々増加傾向にあったが、23年度以降減少傾向となり、24年度は1,118名(23年度1,384名)であった。来室者に占める割合も20%を下回っている。産業医の面談件数は112件(23年度66件)と増加した。

職員健診の結果に基づいて行った、肥満者を対象とした継続的な生活指導「リフレッシュプログラム」は24年度も好評であり、プログラム終了後も測定を継続する職員が多かった。

安全・衛生委員会の主な議題は、事故報告書・ヒヤリハット報告書の作成、路面・法面の陥没箇所の修復等、クレーンの自主点検、故意または不慮の転落防止のための窓の開放制限、授業・実験中の事故対策について等であった。また、伊都ウエストゾーンに存在するが他の事業場の管理対象となっている研究施設については、23年

6月から各研究施設職員(7施設)がオブザーバーとして安全・衛生委員会に参加しており、新たに巡視場所の対象となっている。また、結核集団感染防止対策として、新入留学生に健康診断書の提出を求めることが検討されたが、やはり部局単位ではなく全学的な方針が欲しいとの意見であった。

職場巡視は毎月1回、産業医、労働衛生コンサルタント、安全・衛生委員、保健師、巡視先の衛生管理者、および人事系のメンバーで実施された。主な指摘事項は、実験室・研究室の棚・ボンベ等転倒対策、有機溶剤廃液の処理、ドラフトの適正使用、実験室等の試薬・設備管理、配線の処理等であった。各部門でも週1回、衛生管理者が巡視を行っており、安全衛生に関する労働者の意識も向上しているが、部門により報告状況に差があり、更なる周知・徹底が必要である。

(文責: 永野 純)

### 3) 箱崎地区事業場

箱崎地区事業場の産業保健活動は、産業医1名(上園)と専任衛生管理者の産業保健師1名(宮川ミチコ:総務部人事課職場環境室 所属、環境安全衛生推進室勤務)を中心としつつ、健康科学センターの内科系教員4名(一宮・丸山・入江・眞崎)、保健師2名(松園・竹下)、事務職員2名(安藤・原)の全面的協力を得て進めた。

#### (1) 日常の健康相談

箱崎分室には平成24年度に全体で6,389名の利用者があったが、教職員の利用は1,695名26.5%であった。健診の事後処理や体重・体脂肪・血圧の自己測定のための来室者が多かった。休職中や復職後の職員など、心身の問題を抱える職員に対する面談を1~2カ月毎に実施しており、このための来室者も多い。

**(2)健康診断**

6月に実施した職員健診の事後措置のため、8～9月にかけて職員が来室した。再検査は期限を区切らず、職員の都合に合わせて実施したため、年末まで受診者が続いた。受診後、有所見者には所見の種類により、紹介状発行、再検査や治療勧告、或いは面談を行って事後指導を実施した。また、過体重の職員を対象に、ステージ理論を利用したリフレッシュプログラムを展開しており、その体重管理や個人的な関心のため、自己測定を継続する教職員も多かった。

**(3)裁量労働者の報告書**

箱崎地区事業場にある部局の教員から、1年間で1,184件の報告があった。健康診断の結果を参考に健康状態を確認し、面談希望者には面談を実施した。

**(4)長時間労働者の面談**

時間外勤務が1か月で100時間を超えるか、2～6カ月の平均で1か月につき80時間を超える場合は、面談を行った。H24年度は延べ27名が対象となった。面談結果は意見書にて所属部署や部局へ報告し、事後対策を依頼した。多くの場合、面談時には既に疲労が回復していたが、回復が完全でない職員については面談を継続した。

**(5)職場巡視**

箱崎地区・貝塚地区の部局を順に、毎月1回巡視した。巡視は産業医、専任衛生管理者の他、巡視先部局の衛生管理者1～2名・工営係1～2名が加わり、1～1.5時間程度見て回った。巡視結果は産業医と専任衛生管理者の連名で報告した。年々、部局での対策が進んで指摘事項の改善が見られるものの、相変わらず、整理・整頓・清潔・清掃の4S、高圧ボンベや本棚等の固定、消火器・防災設備・避難通路、喫煙に関することが指摘された。

**(6)安全・衛生委員会**

箱崎地区事業場の衛生委員会は箱崎地区部会（委員長：理学研究院長 荒殿誠先生）の担当で毎月1回、原則として第4火曜日の午前10:30から開催された。産業医・専任衛生管理者と労働衛生コンサルタントからの職場巡視報告と、対象部局からの改善報告、各部会からの活動報告がなされ、赤水問題・喫煙場所・駐車場問題などが引き続き議論された。

（文責：一宮 厚，宮川ミチコ）

**4) 病院福岡地区事業場**

病院福岡地区の平成24年度の産業保健活動は、専属産業医丸山と藤野弘恵・上田真衣の両産業保健師が担当した。上田産業保健師は年度途中で退職したが後任補充することなく、1名欠員の分室体制で年度を乗り切った。

病院職員に対する産業衛生相談は、医歯薬系の教員と事務系職員を主に入江が、病院職員を主に丸山が担当し、精神的な問題に関しては一宮・入江が対応した。病院地区でも心理面での問題を抱えるケースが次第に多くなり、職員カウンセラーへの相談が過密になりつつある。健康相談室の事務は神田と奥村が担当した。

職員健康診断で指摘事項のあった職員に対しては、他地区と同様リフレッシュプログラムを呼びかけ、例年通り一定数の参加希望者が見られた。大学法人化（平成16年度）以降医療労働も過密になり、長時間労働や労災二次の面談が時間的に困難なケースも多くなり、その面談調整や未受診者の追跡が産業保健師の新たな業務負担となっている。

職場巡視は病院地区事業場においても年度計画に基づいて予定通りに行われた。安全衛生週間には病院長をトップとした安全衛生パトロールを行った。病院内も病棟、薬剤師、事務部、検査部や放射線部など業務の特殊性によって指摘事項はまちまちであったが、室内照度の問題（照度不足）や配線の問題（タコ足、ケーブルの過長と巻線）はかなり共通した指摘事項であった。

安全衛生委員会も年間を通して予定通り行われた。委員会では巡視報告以外にも職員健診や特殊検診の案内と結果報告、長時間労働の実態、衛生週間の取り組み、年間の労働災害の内容と件数などについて議論された。当面の課題は九大病院別府地区の職場巡視と安全衛生委員会の立ち上げである。

（文責：丸山 徹，戸田 美紀子）

**5) 馬出地区事業場**

馬出地区事業場の産業保健活動は、産業医の入江と産業保健師の上田、藤野が担当した。馬出地区事業場と病院福岡地区事業場を合わせた病院地区分室への教職員の来室者数は、平成16年度の546名から平成17年度941名、平成18年度1,287名、平成19年度1,405名、平成20年度1,605名、平成21年度1,440名（一時移転のため減少）、平成22年度2,440名、平成23年度2,484名、平成24年度2,840名へと著しい増加を示しており、大学法人化以降5倍以上となっている。概して、教職員のメンタルヘル



ス不調や過重労働、あるいはそれらに起因する休職者数が増加し、そのための面談件数が増えている。特に、心理・精神相談は、平成16年度の96名から平成24年度は1,585名となり、実に約17倍もの増加である。医師による精神相談は、産業医である入江が担当している。産業医の入江は、これまで職場メンタルヘルスや平成13年の脳・心臓疾患の労災認定基準改正の草案作成に携わってきた経緯から、病院職員のメンタルヘルスや過重労働に関する面談も担当しているが、近年は事務系職員や医師のメンタルヘルス問題への対応件数が増えている。

(文責: 入江 正洋, 上田 真衣, 藤野 弘恵)

### 6) 大橋地区事業場

大橋地区教職員の心身の健康維持・増進を図るべく、産業医療保健活動を行っている。また、職場の安全衛生環境・意識を高めるため、職場巡視を行い、安全衛生委員会等で職場安全衛生について議論・提言をしている。これにより、各研究室や実験室の整理・整頓、教育・職場環境は徐々に改善している。教職員のメンタルヘルスに関する相談・対応が増えるとともに、大橋キャンパスの建物等の老朽化で修理・補修を要する箇所が増えつつある。

(文責: 山本 和彦)

### 7) 筑紫地区事業場

筑紫地区の平成24年度の産業保健活動は、産業医眞崎と保健師濱田が担当した。教職員の来室者数は338名で昨年より減少が見られ、産業医面談も今年度は減少している。産業保健活動の成果であるかどうかは今後の動静を見守る必要がある。数の面では減少しているものの、筑紫地区での産業保健活動の認知が広がり来室者が増えたのと同時に、学生、教職員のメンタルヘルス問題に関して対処に苦慮している指導的立場の教員が多く相談に訪れている。

長時間労働を行っている裁量労働勤務者が著しく多いわけではないが、長時間労働を行っている者はほぼ固定化しており、報告書を見るたびに改善を指示しているところであるが、長期的に改善が見られることは少ない。啓発とともに全学での対応が望まれる。

事業場の職場巡視・安全衛生委員会は年間を通して予定通り行われた。総合理工学府自体が、産業との結びつきが比較的強い各安全衛生委員の意識は高く活発な議論が行われた。安全衛生委員会と学務委員会が主導して、

筑紫地区の教職員がまとまって作成した「安全の指針」は学生・教職員の研究・実習環境における安全・衛生管理についてまとめたものであり、英語版に加え、中国語版、韓国語版も作成された。

職場巡視ではここ数年の巡視成果が蓄積され、指摘事項の改善が多く見られようになった。その反面、改善が見られない部署が際だってきた面も否めず、今後はさらなる指導が必要だと考えられる。

(文責: 眞崎 義憲)

### 3. 学生相談

平成24年度の学生相談は、常勤カウンセラー2名(福盛、松下)、非常勤のべ11名(1回4時間、週1回～月2回)体制で運営した。

相談件数は伊都ウエスト472件、伊都センター9件、箱崎1,092件、病院242件、大橋297件、筑紫89件の合計2,201件であった。長期休み期間中は常勤のみで相談対応を行った。

#### (1) 箱崎地区分室

箱崎地区・学生相談では、常勤カウンセラー2名(福盛:火・金、松下:月)、非常勤カウンセラー、(吉永、斎藤、高野、太田:原則各週1回・4時間が主、高野は複数曜日)、兼任カウンセラー(佐々木・人間環境学研究院)で対応した。

#### (2) 伊都地区ウエストゾーン分室

伊都ウエストゾーン・学生相談では、常勤カウンセラー2名、非常勤カウンセラー1名(中園)が担当した。

#### (3) 病院地区分室

病院地区は、常勤カウンセラー1名(松下)、非常勤カウンセラーの中園(週1回、4時間)と教職員相談担当カウンセラーの磯貝が担当した。

#### (4) 筑紫地区分室

筑紫地区学生相談では、週に4時間ほど、常勤カウンセラー 福盛・松下が対応した。

#### (5) 大橋地区分室

大橋地区学生相談では、常勤カウンセラー1名(福盛)が週に1回、非常勤カウンセラー3名(吉永、井上、馬場:1人あたり週3回4時間)で相談対応を行った。

#### <個人カウンセリング>

昨年に引き続き来談関係者の相談(保護者・教職員)の相談が増えており、教職員や学内各部署と連携しながら心理支援を行っている。また教職員とのコンサルテーションなどを行うことも増えてきている。

#### <サイコロトリート活動>

サイコロトリート（学生の居場所活動）は、平成 24 年度は月に 1 回の頻度で行事を実施した。平成 21 年度からスタッフとして人間環境学研究院の大野真利奈氏に入ってもらっているが、今年度も継続してスタッフとして活動していただいた。3 月には千葉大学の居場所活動をされている大川浩先生に来ていただいて、交流活動を行った。

<親の会活動>

親の会を 2 回行った。第 1 回は平成 24 年 9 月 29 日（土）13:00～17:00、東北大学高等教育開発推進センター学生相談所カウンセラーの池田忠義先生に「人のつながり、家族のつながり」について卓話していただいた。第 2 回は平成 25 年 3 月 9 日（土）13:00～17:00 に OB 学生に「学生期の危機を生きる」というテーマで体験について講話していただいた。

<課題>

来年度より、キャンパスライフ・健康支援センターが発足し、健康科学センターの学生相談担当と学生生活・修学相談室と統合が行われる。これまでの業務に支障がないようにしながら、より有機的・効率的なシステムを構築することを目指す。また、学生支援コーディネーターや障害学生支援等新たな役割をもったスタッフが増える予定であるが、連携がスムーズに行われるように取り組みたい。

（文責：福盛 英明）

4. 精神保健相談

精神的な問題について、健康科学センターの各キャンパス分室において医師が診療したものを精神保健相談業務として報告する。平成 15 年度以降、常勤の精神科医（一宮）と心療内科医（入江）が中心となって精神症状を有する学生ならびに教職員の診療業務に携わっている。精神面の問題での談者は年々増えており、カウンセラーを始め、内科医、保健師・看護師などによる対応も増えている。診断は 15 年度から ICD-10 に従って分類している。

常勤の精神科医（一宮）は、平成 24 年度も大橋地区を除くすべてのキャンパスにおいて週に半日の相談の機会を確保すべく各地区を転々として診察に当たった。原則として月曜から水曜をほぼ半日毎各地区での診療に当て、それでは不十分な場合、木曜や金曜の半日を病院地区などで診療に当てた。金曜午前は従来から九大病院精神科神経科の外来で診察をしてきたが、そこでも一部の九大の学生の診察を行っている。そもそも常勤の精神科医 1 人では 5 つのキャンパス（7 つの事業場）の全てをカバーするには十分ではない。そのため、従来通り医学部精神科神経科の教員に非常勤業務をお願いした。24 年度は

箱崎地区には水曜に平岡健太郎医師、病院地区には水曜に中尾智博医師に来ていただいた。また、伊都地区には金曜日に外部から川島範子医師に来ていただいている。常勤の心療内科医（入江）は相談件数の多い箱崎、病院地区と、筑紫地区において診察に当たった。また各地区では、他の内科医師も精神面の問題を抱えた学生を診療している。

教員については、主たる診察業務は産業医としてのそれである。休職やその後の復職の可否に関する手間のかかる判定業務が多く、入江と一宮の業務の多くを占めている。

こうして平成 24 年度の精神面に関する診療は学生 159 名と教職員 268 名、そのほか卒業生などの 33 名に対して行った。学生の診療者数は前年度が 134 名であったが 17.9%増加した。診察回数は延べ 683 回で前年の 624 回に比べ約 9.6%増加し、1 人当たりの診察回数は前年度の約 4.3 回でほぼ変わらない。長期の治療を要する学生は市内の医療機関を紹介するが、九大病院に受診することができる学生は引き続き大学病院外来でも治療している。

教職員は前年度の 268 名であった。独法化直前の平成 15 年の 23 名に比べると毎年着実に増加して 10 倍以上にも増加したことになる。延べ診療回数は 1,248 回で前年の 1,024 回に比べ 21.9%増加している。また 1 人当たりの診察回数は前年度の約 4.3 回から約 4.7 回/人（最多 21 回～最少 1 回）に増えた。産業保健は、復職後の職場環境調整などのために職場の上司との面談が必要で、本人の診察だけでは終わらないのが普通である。この上司等との面談業務が増えており、教職員との面談時間は増加した。産業医としての業務にますます多くの時間を取られている状況である。

診断内訳は、表に示すとおりである。産業保健においては、職員自身のみならず、職場での対応などのために関係者支援が重要になり時間も割かれることになる。

	統合失調症	感情障害	ストレス関連 (含む神経症)	人格障害	その他	関係者面談 ほか	合計
学生	8	22	101	0	20	8	159
職員	6	35	81	0	9	137	268

（文責：一宮 厚）

5. 健康診断

## 学生定期健康診断

平成24年度の学生定期健康診断は、例年通り病院地区の同窓会館を会場として実施した。4月2, 3, 4, 5, 6日が新入生（新入修士学生等を含む）、10日から19日までが在校生を対象とした健診であった。最終日の4月20日は、新入外国人留学生の健診日とした。その後、6月下旬まで再検査や精密健診を行った。さらに、肥満学生に対する「ウェルカム」生活習慣改善プログラムを実施した。

平成24年度の定期健診の全体的な受診数は14,125人、受診率は74.6%で、前年度の74.2%から僅かに上昇した。例年と同様に、学部新入生は98.4%と高い受診率を示し、就職活動年に相当する学年では受診率が高くなるものの、その間の学年、とりわけ学部2年生の低い受診率も例年と同様であった。さらに、学部2年生は、昨年度と同様、休講措置の配慮がなされなかったことの影響を受けて、46.3%と低調であった。また、学部によるばらつきが小さくないことも例年通りであり、受診率が低い学年や学部では、当該部局等に働きかけているものの、効果が見られない集団も存在する。

健診の実施については特に大きなトラブルはなく、日程通りに無事終了した。ただし、指定日外受診者の中には健診項目の異なる者があり、その対応が煩雑であったことが反省材料として残る。

なお、平成25年度から、健康診断は病院地区および伊都地区の2地区での開催となる。平成26年までは場所が確定しているものの平成27年以降の実施場所が確定しておらず、関係各部署との調整がなお必要である。伊都地区での開催により、伊都地区学生の利便性が向上し、受診率の向上につながることを期待している。

（文責：眞崎 義憲）

## 精密健診

定期健康診断で精密検査が必要と判断された者について、精密健診を行った。心電図や心音にて心疾患が疑われた者は、健診会場にてキャンパスライフ・健康支援センター医師が診察を行い、必要に応じて後日分室で面談を行った。血圧の高い者（150/90 mmHg以上）や脈拍の速い者（110 bpm以上）は、後日分室にて二次測定および自己測定を行い、異常が続く場合は医師が診察を行った。尿検査異常（蛋白または糖が1+以上）のあった者は、後日分室にて最大2回の再検査を行った。既往歴などから必要と判断された者についても、分室にて診察を行った。これらの健診にて、さらなる精査や治療が必要と判断された者については九大病院などの二次医療機関へ紹

介した。

胸部X線（間接撮影）で異常所見のあった者のうち、骨格系異常者（高度の側弯など）は整形外科に紹介し、心疾患が疑われた者は、分室にてキャンパスライフ・健康支援センター医師が診察を行った。これ以外の者（主に呼吸器疾患が疑われた者）については、福岡結核予防センターの県庁内診療所および伊都、病院、箱崎の3地区で検診車による直接撮影を行った。その結果治療または精査が必要な者は九大病院へ紹介し、精査は不要だが経過観察が必要な者は3ヶ月、6ヶ月、または12ヶ月後の再検査（直接撮影）を行った。胸部X線の読影（間接撮影、直接撮影とも）は、九大病院放射線科の全面的な協力のもとに行われた。

以上についての該当者数は、「資料」章の「定期健康診断精密検査実施状況」項に示す。

（文責：眞崎 義憲）

## 職員健康診断

大学法人化以降、国立大学時代に行っていた健康診断から、労働安全衛生法に則った健康診断へと順次移行し、現在はほぼその体勢が整っている。国立大学時代に低かった一般健康診断の受診率も、法人化以降は受診率を高めるための様々な活動を行い、全学的にもこれに呼応するようになり、平成24年度の職員総合健康診断（一般健康診断および前期特殊・特定業務従事者健康診断）の受診者数は6,670人、受診率は99.0%に達している。具体的な健康診断の種類と時期は以下の通りである。

- ・一般健康診断（6月）
- ・特定業務従事者健康診断（前期6月、後期11・12月）
- ・特殊健康診断（前期6月、後期11・12月）
- ・雇入時健康診断（各月随時）
- ・労災二次健康診断（8月）
- ・海外派遣労働者健康診断（随時）
- ・遺伝子組換え及び研究用微生物実験従事者健康診断（11月）
- ・VDT作業従事者健康診断（11月～12月）
- ・電離放射線健康診断（2月、4月、9月、11月）
- ・大腸集団検査（11月）
- ・胃集団検査（11月）
- ・子宮頸がん検査（11月）

このうち、後期特殊・特定業務従事者健診は2,597人（受診率94.1%）、遺伝子組換え等実験従事者健診は1,477人（学生928人を含む）であった。

（文責：眞崎 義憲）

## 職員健康診断・事後措置

総合健診等の結果、再検査や精密検査が必要とされた事後措置対象者は以下の通りであった。

- ・二次検査（尿）：494人
- ・二次検査（血圧）：281人
- ・要産業医面談：124人
- ・要精査（再検査）：825人
- ・治療継続勧奨：912人

事後保健指導として、肥満者に対する「リフレッシュプログラム」（生活習慣改善のために本学独自に開発した特別プログラム）を勧奨した。参加同意者は41人（昨年度は92人）であった。H24年度より、勧奨方法を健診会場での呼びかけから文書のみに変更したため参加者数は減ったが、モチベーションの高い参加者が増えたため、脱落者は減少した。

（文責：眞崎 義憲）

## 遺伝子組換えおよび研究用微生物実験従事者等の健康診断

本学では、九州大学遺伝子組み換え実験安全管理規則および九州大学研究用微生物安全管理細則の規定に基づいて、遺伝子組み換えおよび研究用微生物を用いた実験に従事する職員、ならびに学生を対象として、特別健康診断を実施している。遺伝子組み換え実験安全委員会の委員である健康科学センターの教員（医師）、および病院地区の保健師が実務を行い、総務部職場環境室が事務処理を担当している。

本年度の対象者は、1,477名（職員549名、学生928名）であった。全員を対象に、質問票を用いて既往歴、現在の治療歴、自覚症状、定期健康診断受診の有無と結果についての問診を行った。

昨年度から、下記基準に示すレベル3以上は全員特別健康診断対象者とし、下記基準2あるいは3に該当する者に関しては健康科学センターの教員（医師）が問診票による判定を行った上で対象者を決定し、特別健康診断を実施することとなった。健診結果の総合判定は同じ教員が実施することになった。

以下に特別健康診断実施にかかる要否判断の基準を示す。

1. レベル3以上（「遺伝子組み換え実験従事者のうち封じ込めレベルがP3以上」あるいは「研究用微生物実験従事者のうちレベル3以上の研究用微生物を用いて実験を行う者」）の実験従事者
2. レベル2の実験従事者のうち、人に対する病原微生物を取り扱う者で、かつ「自覚症状」や「定期健康診断受

診状況と結果」等の記載から受診が必要と判断された者。

3. その他、とくに受診が必要と判断された者。

上記の基準2,3に該当した者10名について、問診票などによる判定を実施し、10名全員が特別健康診断の対象外となった。特別健康診断はレベル3に相当する該当者がいなかったため、平成24年度は実施をしなかった。

質問票は、平成16年以降は職場環境室で保管している。また、血液検査の余剰血清は、筑紫地区の冷凍庫で保管しており、その保管期間は原則として5年間である。

（文責：眞崎 義憲）

## 外国人留学生の秋季特別健康診断

実施期日：平成24年10月31日

実施場所：健康科学センター病院分室および歯学部講義室

対象者：春季留学生は、留学生センターのみならず正規の学部生にも含まれるため、全体数の把握は困難であった。秋季入学者の留学生で、入学の際に胸部X線撮影を含む健康診断を受け、健康診断書を提出し、かつ結果に異常が無いと判断された場合は、健康診断受診を免除する措置を行った。その結果、秋季の留学生健診対象候補者544人のうち、受診が必要であった者は399人であった。この数は、年々増加傾向にある。

受診者：335人（平成23年度339人）

受診率：84.0%（平成22年度87.6%）

検査項目：身体測定、尿検査、血圧測定、心電図、内科診察、胸部X線撮影

秋季は、胸部X線撮影の異常者は13名、尿検査の異常者は19名、血圧測定の異常者は11名、心電図の異常者は2名、内科診察での有所見者が3名であった。尿検査・血圧・心電図に所見がある学生は健康科学センター分室において二次・精密検査を行った。胸部X線撮影で精査が必要とされた学生は、日本人学生と同様に、放射線科で直接撮影による再検査を行い、必要に応じて九大病院呼吸器科や放射線科等を紹介した。

（文責：眞崎 義憲）

## 大学院生対抗駅伝大会のための健康診断

実施期日：平成24年11月9日～11月30日

実施場所：健康科学センター伊都地区ウエストゾーン分室

対 象 者：工学府駅伝大会参加者

受 診 者：99人（H23年度103人）

工学府駅伝大会への出場希望者を対象として大会直前に実施している。ただし、本健康診断は、学生定期健康診断を受診していることを受診の条件とし、項目は医師による問診と診察である。血圧で参加不可と診断された者が1名、2人が条件付きで承認、残る96人は参加可能と診断された。

（文責：眞崎 義憲）

## 6. 健康および安全・衛生に関する全学会議

### 1) 保健管理専門委員会

保健管理専門委員会は、健康科学センター長を委員長とする全学的な学生保健管理業務に関する会議であり、本会議を通じて学生保健管理に関する日常業務への全学の理解と協力を得ている。委員は地区別に定めた順番で選出された12名で構成されている。

平成24年度も前年度と同じく以下のような内容について開催した。筑紫地区事務部教務課保健係が事務を担当している。

（文責：眞崎 義憲）

（第1回）

日 時：平成24年7月9日(月)10時30分から

場 所：箱崎理系地区本部第二庁舎 2階 第二会議室  
議 題

1. 副委員長の選出について
2. 平成23年度学生健康診断等経費の決算(案)について
3. 平成24年度学生健康診断等経費の予算(案)について
4. 平成26年度以降の学生定期健康診断の取扱いについて
5. その他

（第2回）

日 時：平成24年9月12日(水)15時30分から

場 所：箱崎理系地区21世紀交流プラザ1  
2階 講義室A

報 告

1. 平成24年度新入生面接の結果について
2. 平成24年度入学者の麻疹調査の結果について
3. 平成24年度薬物調査の結果について
4. 平成23年度各分室の来室者数の結果について
5. 平成23年度健康科学センターが行ったプログラムの結果について

(1) 肥満学生（ウェルカム）

(2) 禁煙教室（卒煙）

6. その他

議 題

1. 平成25年度学生定期健康診断実施要項（案）について

2. 平成25年度以降の学生定期健康診断について

3. その他

（第3回）

日 時：平成25年2月4日（月） 15時30分から

場 所：箱崎理系地区21世紀交流プラザ1  
2階 講義室A

報 告

1. 平成24年度学生保健管理に係る年間行事について
2. 平成24年度秋季留学生健康診断の結果について
3. インフルエンザの発生状況について
4. インフルエンザによる出席停止期間について
5. 平成24年度卒煙Qについて
6. その他

議 題

1. 平成25年度学生保健管理計画(案)について
2. 平成25年度学生定期健康診断の実施について
3. その他

### 2) 環境安全衛生推進室会議

環境安全衛生推進室会議は全学的な環境・安全・衛生上の諸問題を取り上げ、その審議を通じてそれらの諸問題の改善を図る会議である。健康衛生管理部門、環境安全管理部門、高圧ガス等安全管理部門、特定分野安全管理事務部門、エネルギー資源管理部門から構成されており、事務は総務部の職場環境室・安全衛生係が所掌している。

平成24年度の環境安全衛生推進室会議は4回（5月16日、9月12日、12月4日、3月13日）開催され、国立七大学安全衛生管理協議会への対応、本学「安全衛生ガイドライン」の改訂、次年度の安全衛生管理年間計画などについて協議され、年間を通じて2回（前期・後期）の作業環境測定結果について報告があった。

さらに健康衛生管理部門に喫煙対策検討WG、環境安全管理部門には化学物質管理支援システムに関するWGが設置されており、特定の問題に対して専門的見地から実効性の有る提言を行った。

（文責：丸山 徹）

## 7. 新入生健康支援面接

### 新入生面接

健康科学センターでは、学生の健康に関するニーズに基づいたサービスを提供するという「健康支援モデル」に基づいた業務活動を目指しているが、その一環として新入生の潜在的なニーズに対応する目的で、入学後に健康相談を実施してきた。

対象は、1. 自覚的な心身の不調が多く認められる学生、2. 日常生活に支障を来すような障害を有する学生で、封書を送って健康相談室への来談をうながし、内科と精神科の医師、臨床心理カウンセラーによる面談を行っている。平成 24 年度は、伊都センターゾーン分室で 5 月の連休翌週の 8 日から 25 日まで 2 週間にわたって実施した。

平成 18 年度以降、新入生向けの「健康支援パッケージ」では高校時代の生活習慣と既往歴について調査し、平成 14 年度から行っている定期健康診断時の自覚症状と生活習慣についての調査「健康生活支援調査」と併せて入学時の健康調査とし、これらをもとに面接の対象を選出した。平成 24 年度からは、九州大学で独自に作成した「発達的な課題を有する学生への支援に関するアンケート」も追加し、発達障害傾向による大学生活での修学困難の可能性をチェックする試みも開始し、面接の対象とした。

#### 1) 心理精神健康相談

心理健康相談は、カウンセラー（常勤の福盛と松下、非常勤の井上綾子、中園照美、斎藤明子）と精神科医（常勤の一宮と非常勤の川島範子）とで行った。対象は、1. 精神疾患ならびにストレス関連疾患の既往がある者、2. 対人コミュニケーションに問題がある可能性がある者、3. 発達障害傾向による修学上の困難を有する可能性がある者、とした。

来談勧奨者は 183 人で、実際の来談者は 162 人であり、来談率は 88.5%であった。

内訳は、神経症水準の問題が 13 名（8.0%）、精神病水準の問題を有する者も 2 名（1.2%）いた。また、性格上の問題が 53 名（32.7%）、むしろ身体の問題であった者が 3 名（1.9%）であった。66 名（40.7%）は問題なしであった。発達障害の問題を有する者は 19 名（疑いは 43 名）であった。

これらの学生に対しては、心理相談の紹介を 82 名（50.6%）に、治療の指示も 7 名（4.5%）に対して行い、そのほか性格・行動面についての認識の促進や生活指導を行った。36 名（22.2%）に対しては特に指導の必要性がないと考えられた。

#### 2) 一般健康相談

一般健康相談は、主として身体に関する相談で、内科医 3 名（常勤の眞崎と永野、丸山）と精神科医 1 名（常勤の一宮）が行った。対象は、1-C. 「障害者手帳を持っていますか」、1-D. 「心身の病気や障害のために日常に支障をきたしていますか」に〇をつけている者であった。ただし、該当する問題について定期健康診断時に検討され指導を受けたり、あるいは診断結果によって問題なしとされた者は対象から除いている。

来談勧奨者は 22 人で、来談者は 13 人で、来談率は 59.1%であった。内訳は、5 名（38.5%）が異常なし、身体疾患が 6 名（46.2%）、身体障害は 2 名（15.4%）で、精神疾患は 0 名（0%）であった。これらの学生に対して、健康相談の継続の指導を 3 名（23.1%）に、生活のアドバイスを 3 名（23.1%）に、治療の指示を 1 名（7.7%）に行った。

（文責：一宮 厚）

## 8. 感染症対策

感染症の確認システムは、昨年度に提案され、感染症対策としての利用と全学の安否確認インフラとしての利用の双方で活用されることになったが、今年度は 1 月に安否確認システムとしての運用、2 月にインフルエンザの注意喚起としての運用が実施された。今後、災害時の危機管理と感染症拡大阻止に活用できることが確認された。

今年度も、新入学生に対する麻疹等感染症の感受性調査票送付と麻疹ワクチンの接種勧奨は今年も実施した。ワクチン接種は、健康科学センターからの呼びかけが接種動機になっている者が多かった。今後も感受性調査とワクチン接種勧奨を行っていく予定である。

（文責：眞崎 義憲）

## 9. 情報発信活動

健康科学センターの HP が刷新されて 3 年が経過した。学生や教職員、一般の方がそれぞれ必要とする情報に容易にたどり着けるようにしたこともあり、健康診断関係や QU ウォーク、公開講座などの情報も HP で容易に確認できるようになったと考えられる。

また、ホームページ構築の際に、新着情報の項目を組み入れてもらい、適時適切な情報のアップデートが可能となった。新着方にリンクして、かわら版なども HP から確認ができるようになったことで、健康科学センターの活動を広く知ってもらうことが可能となった。

平成 25 年度の改組により、組織の陣容も変わるため、HP の管理及び内容について来年度以降検討する必要がある。

(文責: 眞崎 義憲)

## 10. F D 活動

### 第 49 回全国大学保健管理研究集会

第 50 回全国大学保健管理研究集会は、近畿地方部会が担当した。共通テーマ「大学保健管理の半世紀 ～ 先人に学び未来を拓(ひら)く～」のもとに、平成 24 年 10 月 17 日と 18 日の 2 日間、神戸大学が当番校となって神戸市で開催された。本学からも教員、看護職員、事務職員が多数参加した。

(文責: 眞崎 義憲)

### 第 42 回九州地区大学保健管理研究協議会

第 42 回九州地区大学保健管理研究協議会は、平成 24 年 8 月 22・23・24 日の 3 日間(初日は保健・看護分科会)、福岡教育大学が当番校となって開催された。

(文責: 眞崎 義憲)

## 国立大学法人保健管理施設協議会ならびに公益社団法人全国大学保健管理協会

### 1. 国立大学法人保健管理施設協議会

平成24年度の国立大学法人保健管理施設協議会は、総会が兵庫教育大学が当番校となって10月19日に兵庫県神戸市ホテル北野プラザ六甲荘で開催された。当センターの一宮は平成23年度から九州地区選出の理事を務めているが、今年度の理事会は第1回が6月21日に京都大学で、2回目が拡大理事会として10月18日に開催された。

総会には、国立大学法人85校から88名の施設長が参加した。

午前中には、議長から事前の質問と文科省および学生支援機構への要望事項について報告と、各種委員会、研究班からの報告、予算と決算の審議があった。文部科学省からは昨年に続き担当者が来なかった。

午後は、その後、会則の改訂、人事、会費の改正、委員会の見直しなどが審議された。総会を保健管理施設の施設長ではなく施設からの代表会員によって構成するという現場担当教員の出席の場とすることとなったことが主な変更である。一宮は25年度から2年の理事に再任された。会費は来年度から学生数に応じた傾斜をつけたものとなり九大は倍額の6万円となる。新たな委員会とし

て総務企画委員会を常設委員会として作り、執行部機能を強化することになった。

### 2. 公益社団法人全国大学保健管理協会

公益社団法人全国大学保健管理協会は国公立の大学の保健管理についての連携協力と研究を目的としたもので、全国大学保健管理研究集会を開催し CAMPUS HEALTHを発行している。当センターの一宮はH23年から評議員を務めているが、今年度の第1回目の評議委員会は10月16日に兵庫県神戸市のポートピアホテルで開催された。総会は第1回が6月21日に京都大学で、2回目が10月18日に兵庫県神戸市のポートピアホールで開催された。

(文責: 一宮 厚)

### 第15回フィジカルヘルス・フォーラム

コーディネーター: 岡山大学保健管理センター 小倉俊郎教授

期日: 平成24年3月20日(水)～3月21日(木)

会場: 岡山大学創立五十周年記念館

以下に、平成24年3月29日付で国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会委員長 立身政信 先生、フィジカルヘルス・フォーラム会長 大塚盛男先生から送られた報告等を抜粋して掲載する。

第1日 3月20日(木)

#### 1. テーマ1: 大学生における今日の問題

講演1: 「G I Dの現状と望まれる大学の対応」 岡山大学大学院保健学研究科 日本G I D学会理事長 中塚幹也先生: G I D(性同一性障害)についてわかりやすく解説され、障害を有している人が抱える問題点を指摘された。G I Dでは、性自認(心の性)と身体の性と異なる状態であり、物心ついた頃から性別違和感が生じ、二次性徴が起きるとさらに強くなり自身の身体の性を強く嫌い、性自認に一致した社会的性役割をとろうとするため、社会との摩擦が起きやすく、不登校、自殺念慮、自殺未遂・自傷行為、辞職等の問題が高率に見られる。治療として身体的特徴を性自認と適合する性別へ近づけるためのホルモン療法、乳房切除、性別適合手術などが行われる。また、同時に社会への適応のサポートを中心とする精神科領域の治療も行われる。

講演2 「企業側からみた大学生の気質」 ベネッセホールディングス代表取締役副社長 福原賢一先生: 自社で行った調査結果を基に、教育産業に関わる企業のトップと

しての立場から、現代の学生の状況をどのように見ているのかをご講演いただいた。日本の大学生、特に中間層の学力の学生において学習時間が減少しており、世界の国々と比較し学力が低下している問題を取り上げられた。また、現代の学生の気質として、自主性・創造的態度、意欲等の点が弱く、前へ踏み出す力、考え抜く力、理解力・判断力が苦手な一方、非常に素直・まじめで協調性があり指示されれば一生懸命に働く学生が多いことを示され、このような学生気質を理解した上で、学生自身に自己分析や学習計画を立てさせたり、主体性を持たせ自己効力感が持てるような仕組み作りを行い、学生の成長感を高める取り組みを行うことが重要であると述べられた。

## 2. テーマ2：職員のフィジカルヘルス

シンポジウム「大学における職員健康診断と事後措置」

**Overview：**「大学の抱える職員健康診断の問題点」 広島大学保健管理センター 吉原正治先生：事前にPHF会員に実施したアンケート調査結果を基に、職員健康診断の問題点についてoverviewされた。アンケートでは、受診率、健康診断の実施時期や体制、健康診断後の事後措置・面接・保健指導・精密検査等の勧奨について、実施における問題点、職員健診での問題点などを調査され、各大学において直面している問題点や工夫、取り組みなどに関する自由記述についても紹介された。

1) 「特定保健指導が義務化されて以来、保健指導を学内実施してきた状況と課題」 徳島大学保健管理センター 前田健一先生：厚生労働省の報告では平成23年度の特定保健指導の実施率は17.8%と高くなく、大学保健管理センターでも実施している大学は少ないと思われるが、そのような中で徳島大学保健管理センターにおいて実施されてこられた取り組みが報告された。担当の保健師の配置や他の看護職の協力で実施が可能であったこと、厚生労働省のシステムに基づき面接や電話等での指導を実施し、受診率は約75%と高く、約50%の受診者に効果がみられこと等が述べられた。

2) 「健診未受診者・事後措置向上のための工夫」 宮崎大学安全衛生保健センター江藤敏治先生：宮崎大学において健診受診率や事後措置受診率の向上のために実施されてこられた取り組みについて述べられるとともに、吉原先生が実施されたアンケート調査において、自由記述部分に記載されていた健診未受診者への対応や健診後の事後措置等に対する工夫や取り組み、実施においてみられる種々の問題点について、解説・コメントも交えて丁寧に紹介していただいた。

3) 「教職員・学生を対象とした有害業務健診の状況」 愛媛大学総合健康センター 岡田克俊先生：有害業務に関する健康診断や健康管理の概要を述べられるとともに、大学における特殊健康診断の現状についてのアンケート調査の結果が報告された。有害業務の管理については、作業管理、作業環境管理、健康管理の3管理の大原則に基づいて実施すること、特に前2者の重要性が強調された。アンケート調査では、対象者のいる大学では、教職員にはほぼ全てで健診が実施されているが、学生に対しては約60%の実施率であること、対象の選別も自己申告が多いことが述べられ、学生の取り扱いや対象者の選別、健診記録の管理体制等の問題点を指摘された。

## 3. 業務連絡

(1) 次期開催校：第16回フィジカルヘルス・フォーラムは、長岡技術科学大学保健管理センターの三宅仁先生にご担当いただくこととなり、三宅先生から概要をご報告いただいた。また、第17回の担当は北海道地区で、室蘭工業大学保健管理センターの佐々木春喜先生にご担当いただく予定となった。

(2) フォーラム役員の交代：北海道地区の北海道大学保健センター 武蔵 学先生が今年度でご退職のため、室蘭工業大学保健管理センターの佐々木春喜先生がフィジカルヘルス・フォーラム世話人及び国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会委員に就任されることとなった。

(3) 退職会員のご挨拶：今年度でご退職になられる北海道大学保健センター 武蔵 学先生、大阪大学保健センター 杉田義郎先生、愛媛大学保健管理センター 佐伯修一先生、宮崎大学安全衛生保健センター 江藤敏治先生からご挨拶があった。

(4) 新会員紹介：千葉大学総合安全衛生機構 今関文夫先生、齋藤佳子先生、東京医科歯科大学保健管理センター 宮崎泰成先生、京都工芸繊維大学保健管理センター 荒井宏司先生、岡山大学保健管理センター 大西勝先生、清水幸登先生、古賀光先生、河原宏子先生、名古屋大学総合保健体育科学センター 山本明子先生、関西学院大学保健館 佐藤洋先生、山口大学大学教育機構保健管理センター 奥屋茂先生を新会員としてご紹介させていただいた。

参加者数 122人

第2日 3月21日(木)

## 4. テーマ3：大学生のフィジカルヘルス

シンポジウム「健康管理のピットホール ～健康診断における留意点～」

**Overview：**「学生健康診断における留意点」 岡山大学保



健康管理センター 岩崎良章先生：学生の健康診断において遭遇する疾患・異常に対する対応において注意すべき点、比較的まれではあるが緊急を要し治療に結びつけなければならない疾患と比較的よく見られ教育や指導に結び付けるべき疾患について例を挙げて概説されるとともに、岡山大学保健管理センターにおける状況や実施されている取り組みについて紹介された。

1) 「若年者の検尿異常とCKD（慢性腎臓病）」岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 CKD・CVD地域連携・心腎血管病態解析学 前島洋平先生：先ずCKDについてのoverviewをされ、無症状で頻度が高く透析に移行することも多いことや心血管疾患の発症の危険因子となることが強調された。学生健診でも尿蛋白が2+以上や尿蛋白と尿潜血がともに1+以上の場合には精密検査が必要で専門医に紹介すべきであると述べられた。学生の場合はIgA腎症が多いこと、慢性腎炎は減少傾向にあること、肥満やメタボリックシンドロームもCKDに結びつく可能性があり要注意であることも述べられた。

2) 「若年者の甲状腺疾患とその対応」岡山大学大学院教育学研究科（岡山大学病院内分泌センター）三村由香里先生：甲状腺疾患として、甲状腺腫大と機能異常について概説されるとともに、岡山大学の新生に実施した健診状況についても紹介された。甲状腺腫大にはび慢性と結節性があり、後者には甲状腺癌も含まれる。甲状腺癌が発見された学生の紹介があり、丁寧な触診が重要であると感じられた。機能異常としては、橋本病やバセドウ病等があり、大学生においてもみられるが、前者は大学生の約5%にみられると述べられた。

3) 「アレルギー疾患対応における注意点」岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科学 金廣有彦先生：岡山大学の学生健診におけるアレルギー疾患調査についての結果を紹介されるとともに、気管支喘息とアナフィラキシーについて概説された。学生の63%にアレルギー疾患がみられ、特にアレルギー性鼻炎が最も多いことや複数のアレルギー疾患を合併していることが述べられた。大学生における気管支喘息の問題点として管理や治療が不十分になりやすいことが強調された。また、運動誘発喘息の管理とドーピング問題との関連、ハチ刺されやラテックス等によるアナフィラキシーとその対応についても述べられた。

#### 5. テーマ4：大学における危機管理

講演1 「スチューデントクライシスマネジメント」  
広島大学保健管理センター内野悌司先生：学生相談を担当されている立場から大学における危機管理について研

究されてこられた内容について述べられた。危機への対応のためにはリスクの認識と評価が重要であり、そのためには事前に事件・事故を抽出し認識し整理し、組織が優先して取り組むべきリスクの選択を行う必要があると強調され、具体的な対応方法として、シナリオプランニングの技法を用いた自殺モデルの事例研究を例に挙げて解説された。詳細は、研究成果報告書「大学キャンパス内における事件・事故等への危機対応システムに関する臨床心理的研究」を参照していただきたいとのことであった。

講演2 「健康危機管理：大学への期待」岡山市保健所長 中瀬克己先生：肺結核や腸管出血性大腸菌感染症の事例を例に取り保健所の取り組みについて述べられた。前者については接触者検診の方法が述べられ、大学との情報の共有化の重要性が強調された。後者については、感染経路の調査の重要性が強調され、広域食中毒の事例の場合には全国の保健所や国レベルでの情報の共有化が必要になることを述べられ、そのシステムについての紹介もあった。大学において感染症の対応窓口となる保健管理センターは、保健所との緊密な連携体制を構築しておくことが必要であると思われた。

#### 6. 施設見学 岡山大学保健管理センター

岡山大学保健管理センターを自由見学としていただいた。

《次回のご案内》

第16回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内

コーディネーター 長岡技術科学大学 体育・保健センター 三宅 仁教授

日時 平成26年3月19日（水）、20日（木）

場所 シティホールプラザ「アオーレ長岡」 1F 市民交流ホールA

（文責：眞崎 義憲）

#### 第32回全国大学メンタルヘルス研究会

全国大学メンタルヘルス研究会は、平成24年度は北海道大学が主催して11月8-9日に札幌市の北海道大学内の施設で開催された。特別講演、教育講演のほか、研究班報告、一般演題などの発表があった。九大からは一宮が参加し、研究班の報告として国立大学への質問紙調査の結果を「大学生の自殺に対する大学の認識と対応」と題して報告し、一般研究報告として「学生の対人不安と対人関係の消極性は強まっている」と題して10年間の九州大学の新生の対人コミュニケーションに関する質問紙調査の結果を報告した。また運営委員会にも出席した。

(文責: 一宮 厚)

#### 第46回全国学生相談研究会議

2013年1月21日(月)～1月23日(水)に、財団法人モラロジー研究所 谷川講堂(群馬県利根郡みなかみ町)で行われた(実行委員長, 東京工業大学齋藤憲司)。プログラムは、シンポジウム『学生相談の課題と役割—カウンセラーのライフサイクルから—』, 学生相談の事例検討, 会員懇話会などが行われた。健康科学センターからは福盛と松下が出席した。福盛はミニシンポ「学生相談機関の運営とカウンセラーの役割」の司会を務めた。

(文責: 福盛 英明)

#### 学生健康支援会議

産業保健師を含む各分室の看護職員と保健系の事務職員をまじえて、毎月第3水曜日の午後に学生健康支援会議を開催している。平成24年度も、本会議において、予算案の作成、春の学生定期健康診断ならびに秋の留学生健康診断の準備・実施・事後措置、各分室の日常診療対応(対応困難なケースの検討、各分室で共通した統一すべき基準の検討など)、保健管理専門委員会や学生委員会などの学内への対応、保健管理関連の学会での発表演習など、学生の安全・衛生・健康に関連する様々な業務の企画、立案、実施、問題点などについて協議した。なお、平成24年度末で、健康科学センターが廃止され、健康管理業務についてはキャンパスライフ・健康支援センターとして引き継ぐため、その事務を所掌することになる学務部学生生活課と筑紫地区教務課保健係が業務の引き継ぎも兼ねて会議に参加した。

(文責: 眞崎 義憲)

#### 職員健康支援会議

安全衛生推進室所属の産業保健師を含む各分室の看護職員と職場環境室の事務職員をまじえて、毎月第3水曜日の午後に本会議を開催している。学生健康支援会議に引き続いて行われるものである。平成24年度も、各事業場の毎月の産業保健活動報告や安全衛生推進室会議報告から始まり、定期健康診断、特殊健康診断などの各種健康診断の準備・実施・事後措置、平成20年度から開始された特定健診・保健指導、過重労働者面談、対応困難な事例など、産業保健活動に関する様々な業務の企画、立案、実施、問題点などについて協議した。

(文責: 眞崎 義憲)

#### 技術職員研修

各分室で日ごろ別々に業務を行っている看護職員(看護師, 保健師, 産業保健師)に共通して必要な知識やスキルを習得してもらうために、毎月第3水曜日に看護職研修を実施した。

また、新採用の看護職員や事務員の教育として、健康科学センターの組織や役割、業務などに関するオリエンテーションを年度末に実施している。

その他、毎月第3水曜日に教員による研究発表会を開催しているが、看護職員も全員参加することでFDとしての機能も果たしている。

(文責: 眞崎 義憲)

#### 産業保健管理体制

法人化以前は、国立大学設置法施行規則第20条の5の5(「九州大学に、健康科学に関する研究並びに保健及び体育に関する教育を行なうとともに、職員及び学生の保健管理及び体育指導に関する専門的業務を行なうための施設として、健康科学センターを置く」)に則って、健康科学センターは学生ならびに教職員の健康管理(健康診断後の相談や健康教育など)を実施していた。平成16年度からの大学法人化に際しては、産業医としての役割を含めて産業保健活動に従事することを大学側に提案し、協議を重ねた結果、安全衛生法における産業医の選任基準に基づいて、箱崎地区、馬出地区、九州大学病院(福岡)に専属産業医が、六本松地区、筑紫地区、大橋地区、別府地区には嘱託産業医がそれぞれ配置されることが決まり、平成17年10月から加わった伊都地区も含めて、別府地区を除く7事業所の産業医を健康科学センターの医師が担当することになった。また、教職員の安全衛生管理を担当する組織として、新たに「安全衛生推進室」が設置され、健康科学センター第2部門の全教職員も併任安全衛生推進室員の立場で参画した。安全衛生推進室には、3名の産業保健師(非常勤)が専任衛生管理者として採用になり、専属産業医の担当事業場に配属された。また、平成21年度に六本松地区が伊都地区センターゾーンへと移転になり、伊都地区ウエストゾーンと合わせた職員数が急増したことを踏まえて、もう1名の産業保健師(非常勤)が伊都地区ウエストゾーンに配属となった。

平成24年度は、平成16年から手がけた安全衛生体制をさらに構築、定着させることを目標に、産業保健活動を実施した。具体的には、各事業場において毎月職場巡視を実施し、巡視結果や健康診断結果、その他の健康管理事項について衛生委員会で報告や協議を行い、各種健

康診断の円滑かつ効率的な実施を支援するとともに、事後措置を担当した。さらに、人事系の労働時間調査結果に基づいて、長時間労働者に対する面接や助言、指導を行った。このような業務を円滑かつ適切に実施し、さらなる改善をはかるために、健康科学センターのスタッフ、人事系職員、産業保健師からなる教職員健康支援会議を毎月開催し、産業保健活動について協議する場を設けている。また、後述するような、新人から管理職まで及ぶ様々な職員教育を実施した。

(文責: 眞崎 義憲)

### 厚生補導特別企画

#### 教職員向けメンタルヘルス研修会(平成24年度 第3回 全学FD)

1. 企画運営: 健康科学センター, 基幹教育院, 教務委員会
2. 実施日時: 平成25年2月1日(金)  
15:30~17:00
3. 場所: 総合学習プラザAMS講義室I/伊都地区, 旧工学部本館2階4番講義室/箱崎地区(遠隔中継)
4. テーマ: 学生がよい方向に変化する時 ~大学全体で学生の主体性を高め心の活性化を促す~
5. 対象: 本学教職員(広く一般教職員: 特に学生委員会委員, 教務委員会委員, 学部相談員, 窓口職員, 学生支援職員)等
6. 概要:

労働災害の事例の統計を分析して発表されたハインリッヒの法則では、1つの重大な事故の背景には軽傷の事故が29、無傷災害は300あるといわれているが、学生のメンタルヘルスの問題も、自己効力感を失っている高リスク学生の背景には、少数の無気力になっている学生がおり、またその背景には、主体性が十分に発揮できていない多くの学生の存在があると考えられる。一人の高リスク学生を支援するためには、一般学生を活性化させ、学生全体のメンタルヘルスを高めるアプローチが重要である。

このような理由から、まず、林 直亨(健康科学センター・准教授)に「データからみた九州大学の学生の心の健康」というテーマで九州大学の疫学調査データの結果を共有した。次に筑波大学の学生相談カウンセラーの杉江征先生に、「T-ACT(Tsukuba Action Project):メンタルヘルス中間層の学生の主体性の発揮からもたらされる学生の心の健康」というテーマで、学生支援GP

からスタートしたT-ACT(Tsukuba Action Project)の取り組みについて、多くの学生にどのように波及効果があったかについて講演していただいた。特に、現在移転中である九州大学では、まだまだ未整備の伊都キャンパスにおいて、学生のQOL(Quality of Life)を高め、学生を活性化する仕組み(特にソフトウェア)を考える必要があるが、郊外型キャンパスにおける学生の活性化に踏み込んだ講演は、日常の指導の中での対応力を高める際の多くのヒントがあった。講演後に、メンタルヘルスマニ相談会を開催した。

#### 学生の居場所活動を通じたひきこもり・不登校・長期留年学生の心理支援

今日、学生のひきこもりや不登校が問題になってきているが、大学コミュニティには絆が希薄になった学生の人間関係のつながりを担保できる機能が少なくなっている。その結果、孤立した学生の自殺のリスクが高まったりすることが考えられる。健康科学センターでは不登校学生やひきこもり中・ひきこもりからの回復過程にある学生への援助として30年近くサイコロトリートという居場所活動を箱崎キャンパスで行なってきた。本活動は学生相談領域では全国的に有名であり、多くの居場所活動が広がって行った拠点になっている。平成24年度は地域連携の一貫として、千葉大学で居場所活動を展開している大川浩先生をお迎えして、交流セッションを行った。

(文責: 福盛 英明)

## 11. その他の活動

### 職員健康研修

平成24年度も例年通り、総務部人事課や職場環境室の年間計画により、教職員を対象とした健康に関する研修会で、講師派遣の要請があった。これに対して教員および看護職員が適宜分担して講師を担当した。講義は、九州大学新任係長・専門職員研修、九州大学労働衛生週間講演会、九州大学労働衛生週間講演会、および九州大学教室系技術職員研修などであった。

(文責: 眞崎 義憲)

### 入学試験や全学行事等における急患対応

平成24年度も、教員および看護職員は入学試験や全学行事等における急患対応に従事した。主な項目は、九州大学入学式、九州大学オープンキャンパス、九州大学大学院入試、九州大学AO入試、九州大学ホームカミングデー、各大学院（学府）入試、大学入試センター試験、九州大学入学試験などであった。

（文責：眞崎 義憲）

### CAMPUS HEALTH の発行

キャンパスヘルスを年 2 回発刊した。記事は健康に関する啓発などで、教員、保健師が寄稿した。表紙に News&Topics として、百周年記念 QU ウォーク・筑紫キャンパストレーニング室情報などの健康科学センター関連の情報を掲載した。

第 38 号（2012 年 11 月）

- ・やせ：1 年生女子の 2 割，男子の 1 割（大柿）
- ・新任紹介：健康科学センター講師 内田若希先生
- ・あなたに忍び寄る薬物乱用（入江）
- ・ケンセンジャーピンク「感染を予防するの巻」

第 39 号（2013 年 3 月）

- ・よく眠るためのヒント（永野）
- ・からだを動かして抑うつ予防！－健やかなキャンパスライフを送りましょう－（高柳）
- ・けんこう豆知識（松園保健師）

（文責：松下 智子）

# 資 料

1. 定期健康診断に関する基礎資料.

1) 平成 24 年度 学生定期健康診断 学部学年別 受診者数 受診率

		学部学生						修士課程			博士課程					合計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	
文学部	学生数	167	170	167	226			39	57		20	27	61			934
	受診数	166	81	138	166			34	45		19	23	27			699
人文科学府	受診率	99.4	47.6	82.6	73.5			87.2	78.9		95.0	85.2	44.3			77.1
	学生数							54	72		26	41	77			270
比較社会文化学府	受診数							51	49		17	22	20			159
	受診率							94.4	68.1		65.4	53.7	26.0			61.5
教育学部	学生数	51	51	57	62			127	151		38	45	81			663
	受診数	51	20	50	53			117	106		28	34	38			497
人間環境学府	受診率	100.0	39.2	87.7	85.5			92.1	70.2		73.7	75.6	46.9			74.5
	学生数	200	199	199	273			63	52		3	8	20			1,017
法学部	受診数	199	86	169	188			22	22		0	3	2			691
	受診率	99.5	43.2	84.9	68.9			34.9	42.3		0.0	37.5	10.0			46.8
法務学府	学生数							71	113	13						197
	受診数							67	75	6						148
	受診率							94.4	66.4	46.2						69.0
	学生数	248	254	250	340			102	93		13	21	31			1,352
経済学部	受診数	248	94	208	200			49	35		7	12	12			865
	受診率	100.0	37.0	83.2	58.8			48.0	37.6		53.8	57.1	38.7			57.1
経済学府	学生数	291	293	293	396			140	143		31	20	46			1,653
	受診数	291	191	214	277			131	120		27	10	27			1,288
理学部	受診率	100.0	65.2	73.0	69.9			93.6	83.9		87.1	50.0	58.7			75.7
	学生数							54	65		25	18	18			180
数理学府	受診数							49	47		16	11	14			137
	受診率							90.7	72.3		64.0	61.1	77.8			73.2
システム生命科学府	学生数										68	83	35	24	36	246
	受診数										66	67	26	17	27	203
	受診率										97.1	80.7	74.3	70.8	75.0	79.6
	学生数	279	266	258	280	91	104	68	81		143	136	126	161		1,993
医学部	受診数	266	176	190	266	84	94	58	50		113	91	85	88		1,561
	受診率	95.3	66.2	73.6	95.0	92.3	90.4	85.3	61.7		79.0	66.9	67.5	54.7		77.3
医学系学府	学生数	56	59	55	56	57	54				45	57	38	39		516
	受診数	54	51	45	51	54	50				44	36	30	27		442
歯学部	受診率	96.4	86.4	81.8	91.1	94.7	92.6				97.8	63.2	78.9	69.2		85.2
	学生数	86	93	81	83	32	34	52	54		37	19	28			599
薬学部	受診数	86	65	48	75	32	32	52	41		27	11	14			483
	受診率	100.0	69.9	59.3	90.4	100.0	94.1	100.0	75.9		73.0	57.9	50.0			79.1
工学部	学生数	864	858	837	1,017			463	469		132	119	191			4,950
	受診数	846	299	594	769			454	414		79	64	95			3,614
工学府	受診率	97.9	34.8	71.0	75.6			98.1	88.3		59.8	53.8	49.7			69.9
	学生数	205	211	204	270			144	169		26	33	74			1,336
芸術工学部	受診数	203	72	187	184			132	115		17	17	18			945
	受診率	99.0	34.1	91.7	68.1			91.7	68.0		65.4	51.5	24.3			66.0
システム情報科学府	学生数							177	190		31	41	66			505
	受診数							176	177		13	27	29			422
	受診率							99.4	93.2		41.9	65.9	43.9			68.9
	学生数							177	233		30	58	64			562
総合理工学府	受診数							169	212		20	43	49			493
	受診率							95.5	91.0		66.7	74.1	76.6			80.8
農学部	学生数	241	246	236	272			222	238		58	63	86			1,662
	受診数	235	106	194	234			195	186		38	35	40			1,263
生物資源環境科学府	受診率	97.5	43.1	82.2	86.0			87.8	78.2		65.5	55.6	46.5			71.4
	学生数	28	25	28	41											122
21世紀プログラム	受診数	28	20	20	16											84
	受診率	100.0	80.0	71.4	39.0											72.6
統合新領域学府	学生数							67	75		11	14	11			178
	受診数							59	51		9	9	3			131
	受診率							88.1	68.0		81.8	64.3	27.3			65.9
	学生数	2,716	2,725	2,665	3,316	180	192	2,020	2,255	13	737	803	1,053	224	36	18,935
合計	受診数	2,673	1,261	2,057	2,479	170	176	1,815	1,745	6	540	515	529	132	27	14,125
	受診率	98.4	46.3	77.2	74.8	94.4	91.7	89.9	77.4	46.2	73.3	64.1	50.2	58.9	75.0	72.7

## 2) 平成 24 年度 学生定期健康診断精密検査実施状況

## 胸部 X 線

事 項	間接撮影 受検者	要精密者	未受検者	受検者	区 分				
					D30	D31	D32	R	C1
要観察者・その他*		77	20	57	7	48	1	0	1
胸部X線間接撮影	14190	57	2	55	38	7	1	2	7

\*前年度の健康診断の結果、D31またはD32と判定された者

## 検尿(尿蛋白)

学生区分	受検者数	要精密者	未受検者	受検者	区 分				
					C1	C2	D33	D32	R
学部生	2672	242	40	202	1	6	14	166	15
大学院生(修士課程)	1790	86	13	73	0	1	2	69	1
大学院生(博士課程)等	76	4	2	2	0	0	1	1	0
その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-
計	4539	322	55	277	1	7	17	236	16

## 検尿(尿糖)

学生区分	受検者数	要精密者	未受検者	受検者	区 分			
					C1	C2	D32	R
学部生	2672	9	1	8	0	1	6	1
大学院生(修士課程)	1790	6	0	4	1	0	5	0
大学院生(博士課程)等	76	0	-	-	-	-	-	-
その他	1	-	-	-	-	-	-	-
計	4539	15	1	12	1	1	11	1

## 血圧

学生区分	受検者数	要精密者	未受検者	受検者	区 分						
					C1	C2	D23	D22	D21	D3	R
学部生	8818	241	46	195	0	0	4	3	21	160	7
大学院生(修士課程)	3566	139	23	116	0	1	0	6	11	93	5
大学院生(博士課程)等	1743	63	18	45	0	1	2	3	7	31	1
その他	92	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
計	14219	444	88	356	0	2	6	12	39	284	13

## 内科検診

学生区分	内科問 診	診察受 検	証明書 記載要	後日面 談者	区 分			
					C1	C2	D3	R
学部生	8818	3042	38	2	0	1	0	1
大学院生(修士課程)	3566	1893	13	5	1	3	1	0
大学院生(博士課程)等	1743	170	10	1	0	1	0	0
その他	92	8	-	-	-	-	-	-
計	14219	5113	61	8	1	5	1	1

心電図

学生区分	ECG受診	要面談者	証明書 発行時 要面談	後日要 面談者	区 分			
					C21	C23	D3	R
学部生	218	8	4	4	0	3	0	1
大学院生(修士課程)	166	1	3	1	1	0	0	0
大学院生(博士課程)等	10	1	0	1	0	1	0	0
その他	0	-	-	-	-	-	-	-
計	394	10	7	6	1	4	4	1

資 料

別表検査判定基準（学校保健安全法施行規則第9条第2項の別表第1）

区 分	内
生活規正の面	A（要休業） 授業を休む必要があるもの
	B（要軽業） 授業に制限を加える必要があるもの
	C（要注意） 授業をほぼ正常に行ってよいもの
	D（健康） 全く平常の生活でよいもの
医 療 の 面	1（要医療） 医師による直接の医療行為を必要とする
	2（要観察） 医師による直接の医療行為を必要としないが、定期的に医師の観察指導を必要とするもの
	3（健康） 医師による直接、間接の医療行為を全く必要としないもの
要観察の頻度	1 年1回観察を要する
	2 年2回観察を要する
	3 年3回以上の観察を要する

3) 胸部疾患学生健康診断実施状況（平成23年度）

胸部X線間接撮影異常者

学生区分	受検者	異常者	判定内訳		
			E判定	A判定	B判定
学部生	8797	30	1	24	5
大学院生（修士課程）	3542	15	0	12	3
大学院生（博士課程）	1720	12	0	12	0
その他	131	0	0	0	0
計	14190	57	1	48	8

要観察対象者・その他

学生区分	要観察者
学部生	23
大学院生（修士課程）	26
大学院生（博士課程）	26
その他	2
計	77

直接撮影実施数

事 項	受検者	直接撮影実施時期	
		5月	10月
要観察者・その他	60	57	3
間接撮影異常者※	44	44	
秋季留学生健康診断	333		333
計	437	101	336

※間接撮影A判定の全員、およびB判定のうち医師が必要と認めた者



## 胸部 X線間接撮影判定基準

区分		内容
要精査	E	緊急を要するもの
	A	肺野の異常（直接撮影を必要とするもの）
心精査	B	心血管陰影の異常
精査不要	C	上記以外の異常（側弯など）

## 2. 日常業務に関する基礎資料

## 1) 保健施設利用者数（平成 24 年度）

月別	地区別	受付総数	診察	与薬	病院紹介	健康相談	休養室利用
4 月	センター	51	9	6	3	4	1
	箱崎地区分室	443	74	21	26	10	2
	病院地区分室	147	46	2	5	0	0
	大橋地区分室	41	13	8	1	0	1
	伊都地区west	334	43	27	17	2	4
	伊都地区センター	871	71	57	40	0	18
	計	1,887	256	121	92	16	26
5 月	センター	167	25	17	9	7	1
	箱崎地区分室	683	132	51	44	9	5
	病院地区分室	422	80	14	12	1	1
	大橋地区分室	55	9	11	5	2	2
	伊都地区west	593	73	54	18	14	8
	伊都地区センター	808	179	121	43	21	28
	計	2,728	498	268	131	54	45
6 月	センター	136	14	17	6	4	4
	箱崎地区分室	716	129	51	35	10	17
	病院地区分室	654	94	13	11	5	5
	大橋地区分室	99	19	17	5	0	2
	伊都地区west	694	55	41	21	4	18
	伊都地区センター	626	119	138	29	16	28
	計	2,925	430	277	107	39	74
7 月	センター	115	8	10	7	3	3
	箱崎地区分室	686	138	54	39	8	21
	病院地区分室	493	94	6	16	4	1
	大橋地区分室	90	16	19	4	0	1
	伊都地区west	615	44	40	19	12	9
	伊都地区センター	491	73	67	23	3	25
	計	2,490	373	196	108	30	60
8 月	センター	112	14	14	2	8	1
	箱崎地区分室	399	74	10	21	4	9
	病院地区分室	218	75	1	1	10	2
	大橋地区分室	43	9	6	2	1	0
	伊都地区west	391	20	22	11	2	10
	伊都地区センター	112	10	12	6	2	3
	計	1,275	202	65	43	27	25
9 月	センター	112	13	7	3	13	1
	箱崎地区分室	464	88	18	20	13	7
	病院地区分室	277	114	24	9	59	1
	大橋地区分室	46	11	11	1	6	0
	伊都地区west	372	44	35	11	14	6
	伊都地区センター	99	13	5	4	2	3
	計	1,370	283	100	48	107	18

10月	センター	137	14	16	7	33	0
	箱崎地区分室	644	123	50	44	19	11
	病院地区分室	327	104	42	12	49	5
	大橋地区分室	87	33	38	0	9	1
	伊都地区west	644	97	65	27	16	9
	伊都地区センター	366	48	52	20	12	36
	計	2,205	419	263	110	138	62
11月	センター	122	9	10	4	15	1
	箱崎地区分室	557	137	55	34	17	11
	病院地区分室	307	85	16	7	26	3
	大橋地区分室	85	29	26	1	5	0
	伊都地区west	718	223	108	14	13	12
	伊都地区センター	301	44	46	21	13	26
	計	2,090	527	261	81	89	53
12月	センター	86	7	8	7	13	1
	箱崎地区分室	438	137	40	21	17	10
	病院地区分室	394	77	7	7	6	3
	大橋地区分室	49	14	6	1	2	2
	伊都地区west	369	73	50	15	6	15
	伊都地区センター	223	36	35	11	12	16
	計	1,559	344	146	62	56	47
1月	センター	77	6	8	3	9	0
	箱崎地区分室	500	148	61	20	10	5
	病院地区分室	258	92	5	9	1	3
	大橋地区分室	70	35	27	0	1	3
	伊都地区west	414	80	70	11	3	8
	伊都地区センター	203	32	22	15	8	19
	計	1,522	393	193	58	32	38
2月	センター	52	5	9	1	4	0
	箱崎地区分室	420	125	48	21	2	2
	病院地区分室	241	95	2	15	0	1
	大橋地区分室	47	16	14	2	0	0
	伊都地区west	286	53	32	8	5	13
	伊都地区センター	123	16	8	4	5	6
	計	1,169	310	113	51	16	22
3月	センター	61	6	4	4	5	0
	箱崎地区分室	439	111	26	26	1	2
	病院地区分室	238	82	1	10	0	5
	大橋地区分室	23	4	3	3	0	0
	伊都地区west	240	45	26	12	6	5
	伊都地区センター	72	13	1	7	1	2
	計	1,073	261	61	62	13	14
計	センター	1,228	130	126	56	118	13
	箱崎地区分室	6,389	1,416	485	351	120	102
	病院地区分室	3,976	1,038	133	114	161	30
	大橋地区分室	735	208	186	25	26	12
	伊都地区west	5,670	850	570	184	97	117
	伊都地区センター	4,295	654	564	223	95	210
	計	22,293	4,296	2,064	953	617	484

## 2) 地区別保健施設利用者数（対学生数の率）

## \* 24年度分室別健康科学センター利用状況

地区	健康科学センター 総来室数*1	学生 来室数	学生一人あたり 年間来室回数
伊都センター	4,295	3,833	0.81
箱崎	6,389	3,947	0.63
病院	3,976	1,039	0.42
筑紫	1,228	885	1.53
大橋	735	633	0.59
伊都ウエスト	5,670	4,487	1.07
計	22,293	14,824	0.76

## 3) 学部別保健施設利用者数

## \* 24年度学部別健康科学センター利用状況

課程	学部・学府	学生来室数 (A)	学生数*1(B)	学生一人あたり 年間来室回数 (A/B)
学部	文学部	393	785	0.50
	教育学部	204	227	0.90
	法学部	489	883	0.55
	経済学部	598	1,110	0.54
	理学部	881	1,277	0.69
	医学部	478	1,323	0.36
	歯学部	228	337	0.68
	薬学部	248	409	0.61
	工学部	2,905	3,580	0.81
	農学部	556	999	0.56
	芸術工学部	583	903	0.65
	21世紀プログラム	80	122	0.66
	小計	7,643	11,955	0.64
	大学院	人文科学府	294	212
比較社会文化府		195	305	0.64
人間環境学府		277	495	0.56
法学府		77	150	0.51
経済学府		131	263	0.50
理学府		351	383	0.92
数理学府		173	186	0.93
医学系学府		211	723	0.29
薬学府		125	200	0.63
工学府		2,507	1,403	1.79
システム情報科学府		352	536	0.66
総合理工学府		750	570	1.32
生物資源環境科学府		490	673	0.73
芸術工学府		246	505	0.49
法務学府		321	198	1.62
統合新領域学府		173	191	0.91
歯学府		75	183	0.41
システム生命科学府		318	250	1.27
小計		7,066	7,426	0.95
留学生センター他	115	111	1.04	
計	14,824	19,492	0.76	
職員他	7,469			
健康科学センター利用総数	22,293			

\*1 学生数は平成24年5月1日現在（研究生等含む）

4) 健康診断証明書申込者及び発行者（平成 24 年度）

① 総括表

月別		文学	教育	法学	経済	理学	医学	歯学	薬学	工学	農学	21世	人環	シ情	生環	比文	数理	総理工	シ生	芸工	法務	統合新	留七	計
4月	発行数	0	1	4	2	2	1	0	0	1	2	1	1	2	2	0	0	6	0	1	0	0	0	26
5月	発行数	100	16	81	145	131	394	85	110	1,163	68	18	205	303	131	21	31	358	88	127	4	59	5	3,643
6月	発行数	66	18	33	69	47	255	97	87	174	48	7	23	31	55	22	25	92	12	53	1	5	2	1,222
7月	発行数	59	22	27	44	133	269	30	37	107	24	6	19	32	35	25	13	66	17	27	1	11	0	1,004
8月	発行数	39	11	16	28	28	102	17	29	55	12	2	3	23	20	4	1	26	2	26	0	5	0	449
9月	発行数	17	7	11	23	38	113	4	11	81	11	1	17	34	42	13	4	35	7	5	1	1	0	476
10月	発行数	11	2	14	9	17	90	7	3	41	7	0	10	14	11	3	1	19	7	12	1	5	1	285
11月	発行数	6	5	1	12	11	51	13	7	137	8	0	4	2	5	9	0	15	1	6	0	8	0	301
12月	発行数	2	6	5	8	22	28	12	10	54	5	1	3	12	13	1	0	9	17	15	0	3	1	227
1月	発行数	8	1	2	19	68	16	8	28	74	2	1	82	11	39	3	0	38	16	60	0	1	0	477
2月	発行数	22	2	9	100	93	65	30	71	260	42	23	63	68	75	5	5	98	43	76	2	16	0	1,168
3月	発行数	41	21	72	164	126	61	51	102	905	26	13	50	371	242	4	24	225	91	132	10	81	0	2,812
計	発行数	371	112	275	623	716	1,445	354	495	3,052	255	73	480	903	670	110	104	987	301	540	20	195	9	12,090

② 証明書自動発行機による健康診断証明書発行数

月別		文学	教育	法学	経済	理学	医学	歯学	薬学	工学	農学	21世	人環	シ情	生環	比文	数理	総理工	シ生	芸工	法務	統合新	留七	計
4月	発行数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	発行数	92	15	75	143	119	374	83	72	1,121	64	17	190	293	128	16	31	339	85	123	4	59	0	3,443
6月	発行数	65	18	31	67	46	225	95	84	167	48	7	21	27	55	20	24	86	12	50	1	5	0	1,154
7月	発行数	55	22	25	41	127	238	30	33	100	21	6	16	30	34	22	13	62	17	26	1	11	0	930
8月	発行数	39	9	16	24	28	86	17	29	53	10	2	3	22	19	3	1	25	2	26	0	5	0	419
9月	発行数	16	7	11	23	35	109	4	11	79	11	1	16	34	40	12	4	34	7	4	1	1	0	460
10月	発行数	11	2	14	9	15	86	7	3	38	7	0	10	14	11	3	1	16	6	12	1	5	0	271
11月	発行数	6	5	1	9	10	51	13	7	129	7	0	3	2	5	9	0	13	1	6	0	6	0	283
12月	発行数	2	0	5	8	22	26	10	10	52	5	1	3	12	9	1	0	8	7	14	0	3	0	198
1月	発行数	6	1	2	16	68	16	8	27	65	2	1	82	10	38	3	0	38	11	60	0	1	0	455
2月	発行数	22	2	9	99	92	54	30	69	256	42	23	56	65	75	5	0	96	41	76	2	16	0	1,130
3月	発行数	40	16	72	153	125	53	49	93	869	24	13	47	361	232	4	24	221	86	131	10	81	0	2,704
計	発行数	354	97	261	592	687	1,318	346	438	2,929	241	71	447	870	646	98	98	938	275	528	20	193	0	11,447

③ 各分室毎の申込数及び発行数

分室別	文学	教育	法学	経済	理学	医学	歯学	薬学	工学	農学	21世	人環	シ情	生環	比文	数理	総理工	シ生	芸工	法務	統合新	留セ	計
センター	申込計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	35
	発行計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	49	0	0	0	0	0	52
箱崎	申込計	14	6	10	21	16	0	0	0	10	2	26	0	14	2	0	0	5	0	0	1	5	132
	発行計	17	15	13	29	25	0	0	0	12	2	33	0	24	2	0	0	24	0	0	2	8	206
病院	申込計	0	0	0	1	0	78	7	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	135
	発行計	0	0	0	1	0	121	8	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	187
大橋	申込計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	9
	発行計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	12
伊都W	申込計	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	0	19	0	0	0	0	2	0	0	0	1	90
	発行計	0	0	0	0	0	0	0	115	0	0	0	29	0	0	0	0	2	0	0	0	1	147
伊都C	申込計	0	0	1	1	4	2	0	0	5	2	0	4	0	8	2	0	0	0	0	0	0	29
	発行計	0	0	1	1	4	6	0	0	5	2	0	4	0	10	6	0	0	0	0	0	0	39
計	申込計	14	6	11	23	20	80	7	49	76	12	26	23	14	10	2	32	7	9	0	1	6	430
	発行計	17	15	14	31	29	127	8	57	123	14	33	33	24	12	6	49	26	12	0	2	9	643

3. 学生相談・精神保健相談関係統計

1) 健康支援パッケージによる面接の結果（平成 24 年度）

精神・心理系

健康支援パッケージの結果					面接結果							
入学者数	回収数	回収率 (%)	面接該当者数	面接該当率 (%)	受面接数	受面接率 (%)	異常なし	性格問題群	神経症問題群	精神病群	身体問題・他	発達群
2711	2683	98.9%	183	6.8%	162	88.5%	66	53	13	2	5	19

身体系

健康支援パッケージの結果					面接結果						
入学者数	回収数	回収率 (%)	面接該当者数	面接該当率 (%)	受面接数	受面接率 (%)	異常なし	障害問題群	身体疾患群	精神疾患群	家族の問題・他
2711	2683	98.9%	22	0.8%	13	59.1%	5	2	6	0	0

2) 学生相談・精神保健相談（平成 24(2012) 年度）

		経済	教育	文	法	工	理	農	芸工	21C	経院	人環	人文	法院	工院	理院	生資	総理	比文	シ情	数理	シ生	法科	統領	医	歯	薬	留セ	他卒業生	職員	その他	計
心理相談	利用回数	88	17	64	63	359	189	99	357	12	22	41	57	20	250	168	157	111	0	69	55	94	48	43	90	47	111	0	201	1497	154	4483
精神保健相談	利用者数	8	3	10	9	32	23	15	41	4	5	8	5	2	27	17	29	13	0	13	6	10	8	6	18	7	17	0	19	318	64	737
サイロリット	利用回数	0	0	0	22	0	5	54	11	0	0	0	11	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62	0	0	0	429	0	41	738
・ロビー	利用者数	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	16	0	4	27

## 3) 学生相談・精神保健相談ケースの診断分類と治療進度（平成 24 年度）

\* 教職員自身および教職員に関する相談は除く（学生に関する相談は含む）

## 精神保健相談 196 名

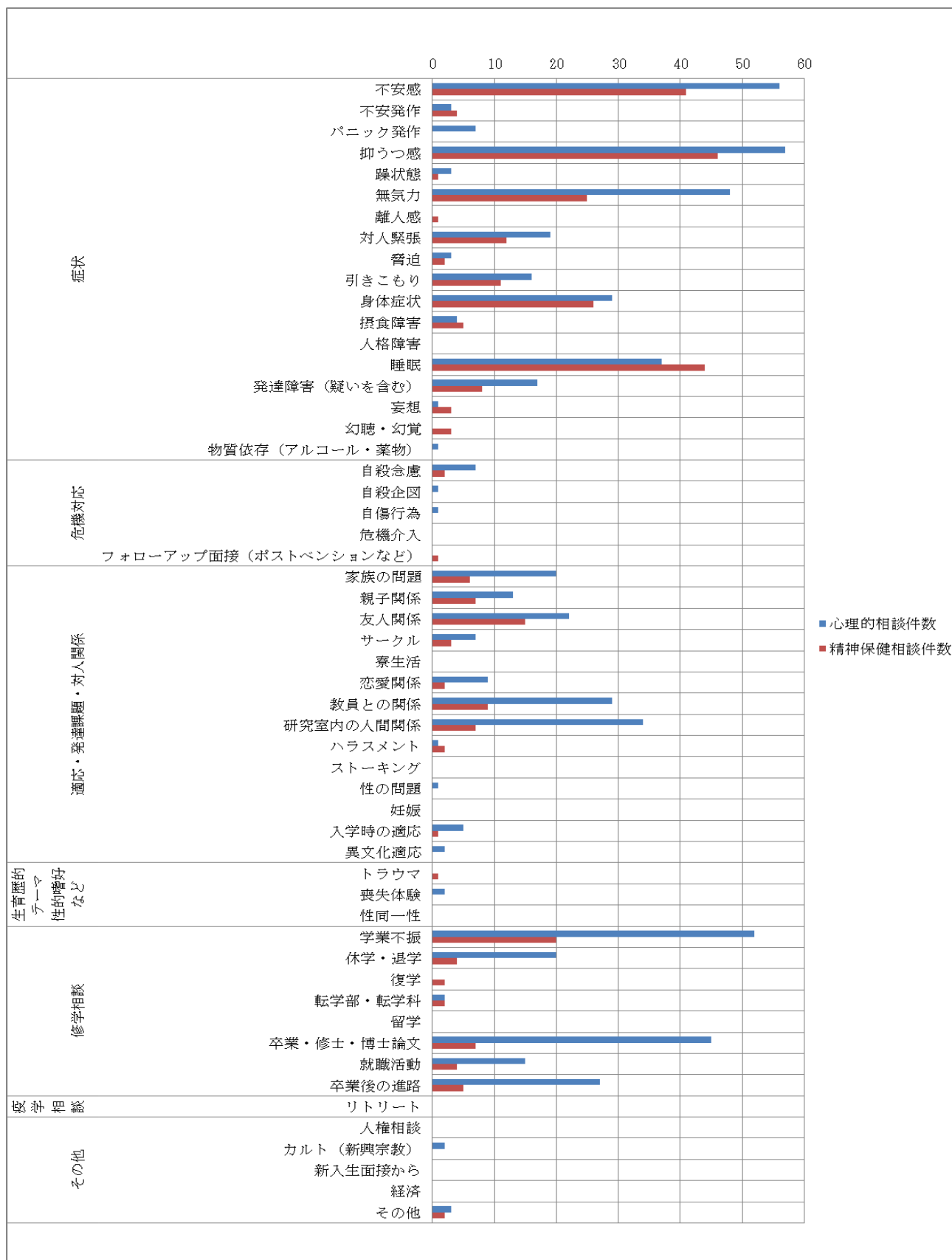
	終了	委託	継続	中断	計(%)
1. ガイダンス	8	0	3	2	13 (6.6)
2. 情緒不安	18	6	37	11	72 (36.7)
3. ノイローゼ	12	7	11	2	32 (16.3)
4. サイコパス群	0	0	0	0	0 (0.0)
5. 精神病群	1	4	4	2	11 (5.6)
6. その他	16	4	10	5	35 (17.9)
7. 関係者の相談	15	3	14	1	33 (16.9)
計(%)	70 (35.7)	24 (12.2)	79 (40.3)	23 (11.8)	196 (100.0)

## 心理健康相談 338 名

	終了	委託	継続	中断	計(%)
1. ガイダンス	17	1	12	7	37 (10.9)
2. 情緒不安	34	2	89	15	140 (41.4)
3. ノイローゼ	15	2	24	6	47 (13.9)
4. サイコパス群	1	0	1	0	2 (0.6)
5. 精神病群	3	0	3	1	7 (2.1)
6. その他	4	0	17	4	25 (7.4)
7. 関係者の相談	38	0	42	0	80 (23.7)
計(%)	112 (33.1)	5 (1.5)	188 (55.6)	33 (9.8)	338 (100.0)

4) 平成 24 年度 新規来談精神保健相談・心理相談内容副次分類（ICU の分類に準じる）

（複数チェック有）（来談から現在に至るまでの相談内容分析）



4. 学籍異動と健康に関する基本統計（平成 23 年度）

1) 休学者数とその理由

理由 \ 課程	学 部	修 士	博 士	計
疾病	68	40	24	132
経済的理由	131	63	98	292
海外留学	16	5	14	35
その他	20	22	106	148
計	235	130	242	607

2) 疾病による休学者の疾患詳細

理 由	疾患者数
●精神科神経科疾患	
アスペルガー症候群	1
アトピー等の体調不良・意欲減退	1
うつ状態	11
うつ病	18
学業意欲減退・喪失・学業不振・怠学	2
気分変調症	1
ストレスによる頭痛のため	1
ストレス性大腸炎のため	1
精神障害	2
双極性障害	1
適応障害	1
デュシャンヌ型筋ジストロフィー症	1
てんかんの治療のため	1
統合失調症	12
不妊症で治療	1
不眠症等	1
不明熱、心身症	1
薬物依存	1
抑うつ状態	16
意欲減退による不登校	2
易疲労感（抑うつ状態）	1
引きこもり・不眠等	1
気分障害の治療のため	1
気分変調症	2
強迫神経症・うつ状態の治療のため	1
強迫性障害	1
月経前不快気分障害	1
高機能発達性障害	2
社会不安障害	4
心因反応・心身症の治療のため	1
心身症、過敏性腸症候群	1
神経症	3
進路面での悩み、意欲低下	1
精神的疾病疑い	2
精神病（統合失調症、うつ病）	2
体調不良の静養のため	2
対人緊張状態からくる不登校	3
適応障害	3
発達障害	1
不登校	1
抑うつ神経症	2
両親の看病による精神的疲労	1
小 計	113
●身体疾患	
アトピー性皮膚炎の治療のため	1
けが	1
脳梗塞症	1

急性NK細胞性白血病(急性白血病)	1
甲状腺癌	2
甲状腺癌後、拡張型心筋症	1
子宮筋腫	1
脂肪肝、慢性肝炎の治療のため	1
心電図異常、結石治療のため	1
慢性移植腎病、乳がん、腎性甲状腺機能低下症	1
舌癌の治療のため	1
全身性エリテマトーデス	3
低ゴナドトロピン性性腺機能低下症	1
転移性脳腫瘍、原発性肺癌の治療	1
乳癌術後	1
膝臓病	1
小 計	19
計	132

3) 退学者数とその理由

理由 \ 課程	学 部	修 士	博 士	計
疾病	6	6	5	17
就職	9	32	66	107
他大学入学	13	1	1	15
他大学受験	12			12
再受験	2			2
一身上の都合	42	36	14	92
経済的理由	7	6	9	22
他大学転学	1		2	3
大学院入学	6			6
家庭の都合		2		2
在学期間満了	13	7	2	22
休学期間満了		1		1
海外留学	1			1
学業不振	2			2
入学料未納		3		3
帰国			2	2
その他		2	5	7
計	114	96	106	316

4) 除籍者とその理由

理由 \ 課程	学 部	修 士	博 士	計
死亡	3		3	6
授業料未納	12	9	8	29
懲戒処分			1	1
成業の見込 みなし	6			6
計	21	9	12	42

※参考資料

学部： 東京工業大学への回答  
 修士/博士： 福島大学への回答



年間行事（平成24年度）

月	行 事	内 容	備 考
4月	学生定期健康診断の実施 新入学生向け健康教育の開講 新入留学生向け健康教育の開講 健康診断後の精密検査の実施 肥満学生に対する栄養生活指導の実施 広報誌CAMPUS HEALTHの発行No. 37 入学式	身体計測・検尿・胸部X線・内科・血圧・心電図      医師派遣	受診者：8,816名 （院込み14,125名） 受診率： 新入生 98.4% 4年生 74.8% 全学年 74.8% （院込み 74.6%）
5月	健康診断後の精密検査の実施 胸部X線精密検診の実施 健康支援パッケージに基づく新入生面接の実施	定期健康診断で精密を要すると判定された学生、胸部疾患の既往歴を有する学生対象 健康（心理・精神・身体）支援のためのスクリーニング面接	各地区分室で実施 受診者：44名 来室者：165名
6月	健康診断後の精密検査の実施 全国大学保健管理協会総会		京都市
7月	保健管理専門委員会開催		
8月	九州大学説明会への協力 2012卒煙Qプロジェクト 卒煙イベント(肺年齢測定等)開催 工学府・システム情報科学府入学試験 総合理工学府入学試験 全国大学保健管理協会九州地方部会幹事会 九州地区大学保健管理研究協議会	医師・保健師派遣  医師・保健師派遣  医師派遣	福岡市 福岡市
9月	喫煙学生に対する禁煙支援開始 保健管理専門委員会開催 来談学生の親のためのメンタルヘルス講習会		
10月	秋季新入外国人留学生健康診断 新入留学生向け健康教育開講 全国大学保健管理協会総会 全国大学保健管理研究集会 国立大学法人保健管理施設協議会総会 九州大学ホームカミングデー&アラムナイフェスに係る	看護師派遣	受診者：335名  神戸市 神戸市 神戸市
11月	工学府駅伝大会参加者の健康診断 留学生健康診断後の精密検査 九大祭（伊都地区） AO選抜(21世紀プログラム) 広報誌CAMPUS HEALTHの発行No. 38	保健師派遣  医師・保健師派遣	受診者：99名
12月	組み換えDNA実験従事者等に係る健康診断		問診928名
1月	大学入試センター試験	医師・保健師派遣	
2月	メンタルヘルス研修会（学生がよい方向に変化する時～大学全体で学生の主体性を高め心の活性化を促す～） 保健管理専門委員会開催 個別学力検査（前期）への協力	医師・保健師派遣	
3月	来談学生の親のためのメンタルヘルス講習会 個別学力検査（後期）への協力	医師・保健師派遣	

5. 定期健康診断表

<b>2012(H24) 九州大学学生健康診断票(A)</b>										旧学生番号														
受検月日 Date		11 12 13 14				学生番号 ID																		
		1 2 3 4 5 6 7 8 9																						
フリカ					性別 Sex		学部生 Undergraduate			修士 Master			博士 Doctor			その他 Others ( )								
氏名 Name					年齢(4月1日現在) Age(As of 4/1)					学部 (学府) School			学科 (専攻) Dept			学年 School year								
生年月日 Birthday		西暦 YY MM DD				才 Y																		
該当する項目口にレをつけてください。										連絡先 Means of contact														
(1)今までに病気などで入院や手術をうけたことがありますか？										現住所 (〒 - ) Address														
<input type="checkbox"/> イイエ      病名      いつ頃 <input type="checkbox"/> ハイ ↳ <input type="checkbox"/> 結核 ↳ <input type="checkbox"/> 気胸 ↳ <input type="checkbox"/> その他 ( )										携帯電話 Cell phone      -      - 電話 Phone      -      -														
(2)現在、どれに該当しますか？ ②～④に答えた方は、病名等を記載して下さい。										E-mail:														
<input type="checkbox"/> ①健康(とくに医療機関の受診はしていない) <input type="checkbox"/> ②医療機関に通院(または入院)している <input type="checkbox"/> ③慢性の病気などで修学や日常生活への支障がある <input type="checkbox"/> ④心身の不調で相談を希望している										研究室名      内線      ( ) Name of lab.      Ext. No.														
(3)現在タバコを吸っていますか？										〒 - ) Country														
<input type="checkbox"/> イイエ <input type="checkbox"/> ハイ→禁煙したいと考えていますか？ <input type="checkbox"/> イイエ <input type="checkbox"/> ハイ										保護者名      電話      -      - Name of parent      Phone														
内科	問診・診察 15 不要 要 1 2 印		診断所見 所見なし 所見あり										※ 診断所見及び判定(カラム16)をご記入下さい										異常チェック 既応歴 内科	
			<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>疾患名</th> <th>医療の状況</th> <th>修学・就労</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td><input type="checkbox"/>経過観察中 <input type="checkbox"/>現在治療中</td> <td><input type="checkbox"/>支障なし <input type="checkbox"/>支障あり</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td><input type="checkbox"/>経過観察中 <input type="checkbox"/>現在治療中</td> <td><input type="checkbox"/>支障なし <input type="checkbox"/>支障あり</td> </tr> </table>										疾患名	医療の状況	修学・就労	①	<input type="checkbox"/> 経過観察中 <input type="checkbox"/> 現在治療中	<input type="checkbox"/> 支障なし <input type="checkbox"/> 支障あり	②	<input type="checkbox"/> 経過観察中 <input type="checkbox"/> 現在治療中	<input type="checkbox"/> 支障なし <input type="checkbox"/> 支障あり	判定 16 特記事項なし(健康) 1 健診証明書記載不要 2 健診証明書記載要 3 印		
疾患名	医療の状況	修学・就労																						
①	<input type="checkbox"/> 経過観察中 <input type="checkbox"/> 現在治療中	<input type="checkbox"/> 支障なし <input type="checkbox"/> 支障あり																						
②	<input type="checkbox"/> 経過観察中 <input type="checkbox"/> 現在治療中	<input type="checkbox"/> 支障なし <input type="checkbox"/> 支障あり																						
身体計測	身長 17 18 19 20 cm		体重 21 22 23 24 kg				体脂肪 25 26 27 %			BMI		体脂計			腹囲 28 29 30 31 cm			BMI 23 25 腹囲						
血圧	スクリーニング 一回目 二回目		収縮期血圧 32 33 34			拡張期血圧 35 36 37			脈 38 39 40			一回目 50 51 52			拡張期血圧 53 54 55			脈拍 56 57 58 印			血圧			
胸部X線	間接撮影番号 59 60 61 62 63					間接番号が「00000」と記入されている人は、直接撮影が必要です。間接撮影は受けない下さい。(回収時に日時をお知らせします。)また過去に直接撮影をうける指示の付いた人は受付に相談してください。										直接撮影指示 64 要観察 その他 1 2		胸写						
尿検査	蛋白 65 - ± + 2+ 3+ 4+ 1 2 3 4 5 6					糖 66 - ± + 2+ 3+ 4+ 1 2 3 4 5 6					M 67 1		再検月日・印			蛋白 糖								
心電図	所見 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 N SA Af SB ST SVPC VPC RAD LAD LVH RVH 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 LAO RAO IRBBB CRBBB LBBB V-II° III° WPW AST Other										二次検査 89 不要 要面接 発行時面接 1 3 4 印				心電図									
判定	既応歴 内科 血圧 BMI				判定 90 健康 要二次 保留 1 2 3 印				証明書自動発行 91 不可 不可 1 2		分室案内 案内		備考											

フリガナ 氏名		学部 (学府)	学科 (専攻)	学部生 MC DC その他( )	年	学生番号															
精 密 検 査  (B)	内 科	月 日 11 12 13 14 面接記録 ( )	発行時面接 15 不要 要 1 2		印	病院紹介 16 不要 要 1 2		医療機関名		診断名		内科(PH) 17 18 19 生活 医療 回数									
	血 圧	一回目 月 日 収縮期血圧 拡張期血圧 脈拍 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32				自己測定 月 日 収縮期血圧 拡張期血圧 脈拍 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71				二回目 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45				ABPM 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84							
	三回目 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58				病院紹介 85 不要 要 1 2				診断名 ( ) 医療機関名 ( )		血圧(P) 86 87 88 生活 医療 回数										
	胸 部 X 線	間接判定 89 緊急 要直接 心精査 その他 E A B C		月 日 撮影番号 90 91 92 93 94 95 96 97				直接判定 98 不要 精査 6ヶ月 1年後 1 2 3 4				精査(直接含む)結果 99 正常 異常 1 2				診断名 ( )		医療機関名 ( )		X線(X) 100 101 102 生活 医療 回数	
	尿 二 次	月 日 103 104 105 106		蛋白 107 - ± + 2+ 3+ 4+ 1 2 3 4 5 6				糖 108 - ± + 2+ 3+ 4+ 1 2 3 4 5 6				潜血 109 - ± + 2+ 3+ 1 2 3 4 5				PH					
尿 (蛋白)	110 111 112 113		114 - ± + 2+ 3+ 4+ 1 2 3 4 5 6				115 - ± + 2+ 3+ 4+ 1 2 3 4 5 6				116 - ± + 2+ 3+ 1 2 3 4 5				尿蛋白(k) 119 120 121 生活 医療 回数						
尿 (糖)	病院紹介 122 不要 要 1 2		診断名 ( )				医療機関名 ( )				尿糖(g) 123 124 125 生活 医療 回数										
心 電 図	月 日 126 127 128 129		再ECG 130 なし あり 1 2				再ECG結果 ( )				印	面接記録 ( )		病院紹介 131 不要 要 1 2		診断名 ( )		医療機関名 ( )		心電図(HE) 132 133 134 生活 医療 回数	
備 考																					
コ ー ド 表	*生活規正 要休業 要軽業 要注意 健康 未受検 保留 A B C D P R						*医療 要医療 要観察 放置可 1 2 3			*回数 年1回 年2回 年3回以上 1 2 3			備考 ( )			証明書自動発行 135 可 1					

《記入例》

※学生番号は、定期健康診断の際に、ご記入ください。

学部	理学	学科	物理学	学生番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学部コード	SC	生年月日	2	0	6	0	6	2	4				

注) 1. 太枠部分をご記入ください。  
 2. 濁点、半濁点は、1文字分をご使用ください。  
 3. 姓と名の間は、1文字分をお空けください。  
 1：昭和  
 2：平成

フリガナ	ヤマダ	タロウ	山田	太郎
氏名	山田 太郎			

《コード表》

*学部コード					
文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部
LT	ED	LA	EC	SC	MD
歯学部	薬学部	工学部	芸術工学部	農学部	21世紀
DD	PS	TE	DS	AG	NC

健康生活支援調査パッケージ (学部生用)

九州大学健康科学センター

合格おめでとうございます。入試の難関をみごとに突破され洋洋たる希望に胸をふくらませておられることでしょう。

さて、九州大学では、みなさんがつがなく学業に精励することができるよういろいろな対策を講じております。なかでも、健康科学センターは学生の心身両面にわたる健康維持増進に万全を期しています。

こうした健康サービス業務をより一層推進するためには、まずあなたの入学当初の健康状態をできる限り正確に知ることが大切です。そのためこのように健康生活支援調査を実施し、その結果にもとづいて、それぞれの専門の教員が、必要に応じてみなさんの今後の学生生活に助言・指導することになっています。

皆さん自身の健康管理、健康増進のために必ず提出してください。

この調査の取扱いについては、個人の秘密が厳守され、健康管理以外の目的(入学取り消し、成績評価など)には絶対使用されません。

提出方法：4月2日(月)・3日(火)・6日(金)の定期健康診断の際、あなたの割り振られた日に持参してください。

なお、入学後は、伊都地区センターゾーンの健康相談室あるいは学生生活修学相談室を、伊都地区ウエストゾーン、箱崎地区、病院地区及び大橋地区でも健康相談室を気軽に利用されるようおすすめします。

この調査表の記入の仕方

1. 各項目の内容をよく読んで、番号を選ぶ回答の場合は、該当する番号を( )の中に入れてください。
2. 「ハイ」「イエ」を選ぶ回答の場合は、「ハイ」の場合には1を○で囲み、「イエ」の場合には0を○で囲み、とばさないようにしてください。
3. 氏名、学部等の記入もれがないようにしてください。
4. 氏名等の記入例及び学部コードは、最終ページを参照してください。

学部コード  学部  学生番号

生 年 月 日  
 3 4 5 6 7 8 9  
 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

フリガナ

氏 名

入学後の連絡先  
 住所 ( 〒 )  ( )  ( )  電話 ( ) ( )  番  
 携帯電話 ( 〒 )  ( )  ( )  電話 ( ) ( )  番

I. 大学での修学や生活について

A. 合格されましたが満足度はいかがですか  
 該当する番号を選んで右の ( ) にご記入ください ( ) 30  
 1. 満足している ( )  
 2. 満足はしていないが、他大学や他学部を受け直すつもりはない ( )  
 3. 満足しておらず、他大学や他学部を受け直すかもしれない ( )  
 B. 入学後の学費および生活費について不安がありますか  
 該当する番号を選んで右の ( ) にご記入ください ( ) 31  
 1. ほとんど不安はない ( )  
 2. アルバイトをしたり、奨学金がもらえれば何とかかなと思う ( )  
 3. アルバイトをしたり、奨学金がもらえても不安である ( )  
 C. 障害者手帳を持っていますか ( ) 障害の級 ( )  
 持っている場合 その部位 ( )  
 D. 心身の病気や障害のために日常生活に支障をきたしていますか ( )  
 1. 身体の不調や障害のために日常生活に支障をきたしている ( ) 32  
 2. 精神の不調や障害のために日常生活に支障をきたしている ( ) 34

II. 高校時代の生活習慣や健康状態などについて

	ハイ	イ	イ	エ
1. 朝、昼、晩、1日3回、規則正しく食事をとっていた	1	0	0	35
2. やせたり太ったり体重の変化が激しかった	1	0	0	36
3. 毎日、だいたい同じ時刻に寝るようにしていた	1	0	0	37
4. 朝起きがとてもしんどかった	1	0	0	38
5. 寝付きが悪い	1	0	0	39
6. 眠りが浅く、夜中によく目が覚める	1	0	0	40
7. 朝早く目が覚めて睡眠不足である	1	0	0	41
8. 軽い運動でも、ひどく疲れてしまった	1	0	0	42
9. 風邪をひくと、いつも寝込むほどひどくなる	1	0	0	43
10. 小さな事にこだわりやすい	1	0	0	44
11. ちよとしたことで心を傷つけられやすい	1	0	0	45
12. ちよとしたことでひどく不安になる	1	0	0	46
13. ちよとした失敗をずっと悔やんでしまう	1	0	0	47
14. 何事でも悲観的に考えてしまう	1	0	0	48
15. 悪い運りがいけないとカッとして抑えがきかなくなる	1	0	0	49
16. 気分が落ち込み、やる気が起こらない	1	0	0	50
17. 対人緊張が強くて困っている	1	0	0	51
18. 友達作りがうまくできず、いつも孤独である	1	0	0	52
19. 悩みを相談できる友人がいた	1	0	0	53
20. 学校でイジメにあったことがある	1	0	0	54

III. 次の病気であると病院などの医療機関で診断されたことがありますか?

	ハイ	イ	イ	エ
1. 喘息	1	0	0	55
2. アトピー性皮膚炎	1	0	0	56
3. 1, 2. 以外のアレルギー疾患 (喘息アレルギーなど)	1	0	0	57
4. 肺結核	1	0	0	58
5. 心臓病	1	0	0	59
6. 高血圧	1	0	0	60
7. 低血圧	1	0	0	61
8. 糖尿病	1	0	0	62
9. 高コレステロール血症	1	0	0	63
10. 甲状腺腫または甲狀腺機能亢進症	1	0	0	64
11. 胃・十二指腸潰瘍	1	0	0	65
12. 肝炎	1	0	0	66
13. 自律神経失調症 (中学生以降)	1	0	0	67
14. 学校の検尿で尿蛋白が尿潜血あった	1	0	0	68
15. 腎臓の病気	1	0	0	69
16. 貧血	1	0	0	70
17. てんかん	1	0	0	71
18. 発達障害	1	0	0	72
19. 神経衰弱・ノイローゼ	1	0	0	73
20. 統合失調症・うつ病・心因反応	1	0	0	74
21. 摂食障害	1	0	0	75
22. 自殺未遂	1	0	0	76
23. 膠原病 (SLE, リウマチなど)	1	0	0	77
24. 膠原病以外の難病 24でハイの人 病気の名前 ( )	1	0	0	78
25. 手術を要した病気 25でハイの人 病気の名前 ( ) ( ) 歳頃	1	0	0	80
26. 入院を要した病気 (手術以外) 26でハイの人 病気の名前 ( ) ( ) 歳頃	1	0	0	81
27. 肥満症	1	0	0	82
28. (女性のみ) ひどい月経異常 (月経痛・無月経) がありますか	1	0	0	82

IV. 家族に次の病気の人がいますか

	父親				母親			
	ハイ	イ	イ	エ	ハイ	イ	イ	エ
1. 高血圧	1	0	0	83	1	0	0	84
2. 糖尿病	1	0	0	86	1	0	0	87
3. 高コレステロール血症	1	0	0	89	1	0	0	90
4. 肥満症	1	0	0	92	1	0	0	93
5. 肝炎	1	0	0	95	1	0	0	96

兄弟 (姉妹)

	ハイ				イ				エ			
	ハイ	イ	イ	エ	ハイ	イ	イ	エ	ハイ	イ	イ	エ
1. 高血圧	1	0	0	84	1	0	0	85	1	0	0	88
2. 糖尿病	1	0	0	87	1	0	0	88	1	0	0	91
3. 高コレステロール血症	1	0	0	90	1	0	0	91	1	0	0	94
4. 肥満症	1	0	0	93	1	0	0	94	1	0	0	97

V. 健康科学センターでは、診療の他に心身の健康相談および健康教育を行っています

1. 大学での勉強について現在ややんでおり、相談したいという希望がありますか  
 現状、心理的問題があり、専門家に相談したいですか  
 現在、身体的問題があり、専門家に相談したいですか  
 家族の病気について、専門家に相談したいですか  
 5. 健康教育を受けるのであれば次のテーマに興味がありますか  
 1) エイズ、肝炎などの感染症予防  
 2) 禁煙  
 3) 成人病予防  
 4) ストレス対策  
 5) 性教育  
 6) 減量教育  
 7) アルコール問題  
 8) その他 (具体的に: )  
 ※ もう一度記入したものを記入し、記入もれなどがなければ確かめてください。

	ハイ	イ	イ	エ
1. 大学での勉強について現在ややんでおり、相談したいという希望がありますか	1	0	0	98
2. 現状、心理的問題があり、専門家に相談したいですか	1	0	0	99
3. 現在、身体的問題があり、専門家に相談したいですか	1	0	0	100
4. 家族の病気について、専門家に相談したいですか	1	0	0	101
5. 健康教育を受けるのであれば次のテーマに興味がありますか	1	0	0	102
1) エイズ、肝炎などの感染症予防	1	0	0	103
2) 禁煙	1	0	0	104
3) 成人病予防	1	0	0	105
4) ストレス対策	1	0	0	106
5) 性教育	1	0	0	107
6) 減量教育	1	0	0	108
7) アルコール問題	1	0	0	109
8) その他 (具体的に: )	1	0	0	109

《記入例》

※学生番号は、定期健康診断の際にご記入ください。

理学府 物理学 専攻 学生番号

1	2	3	4	5	6	7	8	9
S	C	2	0	2	0	6	2	4

学年コード

生年月日

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
フリガナ	ヤマタ ヤマタ タロウ																			
氏名	山田 太郎																			

注) 1. 太神部分をご記入ください。  
 2. 濁点、半濁点は、1文字分をご使用ください。  
 3. 姓と名の間は、1文字分をお空けください。  
 1: 昭和  
 2: 平成

健康生活支援調査パッケージ (大学院生用)

九州大学健康科学センター

資格おめでとうございます。入試の難関をみごとに突破され洋々たる希望に胸をふくらませておられることでしょうか。

さて、九州大学では、みなさんがつがなく学業に精励することができるといろいろな対策を講じております。なかでも、健康科学センターは学生の心身両面にわたる健康維持増進に万全を期しています。

こうした健康サービス業務をより一層推進するためには、まずあなたの入学当初の健康状態をできる限り正確に知ることが大切です。そのためこのように健康生活支援調査を実施し、その結果にもとづいて、それぞれの専門の教員が、必要に応じてみなさんの今後の学生生活に助言・指導することになっていきます。

皆さん自身の健康管理、健康増進のために必ず提出してください。

この調査の取扱いは、個人の秘密が厳守され、健康管理以外の目的(入學取り消し、成績評価など)には絶対に使用されません。

提出方法: 4月2日(月)・3日(火)・4日(水)午後・5日(木)午前の定期健康診断の際、あなたの割り振られた日に持参してください。

なお、入学後は、伊都地区センターゾーン、箱崎地区、病院地区、伊都地区ウエストゾーン、筑紫地区及び大橋地区の健康相談室を気軽に利用されるようおすすめします。

※※※※※ この調査表の記入の仕方 ※※※※※

1. 各項目の内容をよく読んで、番号を選んで回答の場合は、該当する番号を( )の中に記入してください。
2. 「ハイ」「イエ」を選んで回答の場合は、「ハイ」の場合には1を○で囲み、「イエ」の場合には0を○で囲み、とばさないようにしてください。
3. 氏名、学府等の記入もれがないようにしてください。
4. 氏名等の記入例及び学府コードは、最終ページを参照してください。

《コード表》

\*学府コード

人文科学府	比較社会文化学府	人間環境学府	法学府	法学府	経済学府
LT	CS	HE	LA	LS	EC
理学府	数理学府	システム生命科学府	医学系学府	薬学府	工学府
SC	MA	SL	MD	PS	TE
システム情報科学府	総合理工学府	生物資源環境学府	芸術工学府	総合新設学府	
IE	ES	BE	DS	FS	

学 府	専 攻	学 生 番 号							
学 府 コード	生 年 月 日	注) 1. 本枠部分にご記入ください。 2. 濁点、半角点は、1文字分をご使用ください。 3. 姓と名の間は、1文字分をお空けください。							
1 2	3 4 5 6 7 8 9								
フリガナ	10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29								
氏 名									

入学後の連絡先	電 話 ( ) 番
住 所 ( 干 )	電 話 ( ) 番
帰省先 ( 干 )	電 話 ( ) 番

- I. 大学院での修学や生活について  
 今後されましたが満足度はいかがですか  
 該当する番号を選んで右の ( ) にご記入ください ( ) 30
- 満足している  
 1. 満足している ( ) 30  
 2. 満足していないが、他の進路を考えるつもりはない  
 3. 満足しておらず、他の進路を考えるかも知れない
  - 入学後の学費および生活費について不安がありますか  
 該当する番号を選んで右の ( ) にご記入ください ( ) 31  
 1. はとんど不安はない  
 2. アルバイトをしたり、奨学金がもらえれば何とかかと思  
 う  
 3. アルバイトをしたり、奨学金がもらえても不安である
  - 障害者手帳を持っていますか ( ) 障害の級 ( )  
 持っている場合 ( )
  - 心身の病気や障害のために日常生活に支障をきたしている ( )  
 1. 身体 ( ) の病気や障害のため日常生活に支障をきたしている ( ) 33  
 2. 精神 ( ) の病気や障害のため日常生活に支障をきたしている ( ) 34

- II. 大学 (学部) 時代の生活習慣や健康状態などについて
- |                             |    |   |   |   |    |
|-----------------------------|----|---|---|---|----|
| 1. 朝、昼、晩、1日3回、規則正しく食事をとっていた | ハイ | イ | イ | エ | 35 |
| 2. やせたり太ったり体重的変化が激しかった      | 1  | 1 | 0 | 0 | 36 |
| 3. 毎日、だいたい同じ時刻に寝るようになっていた   | 1  | 1 | 0 | 0 | 37 |
| 4. 朝起きがとて苦手で、寝付きが悪い         | 1  | 1 | 0 | 0 | 38 |
| 5. 寝付きが悪い                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 39 |
| 6. 眠りが深く、夜中によく目が覚める         | 1  | 1 | 0 | 0 | 40 |
| 7. 朝早く目が覚めて睡眠不足である          | 1  | 1 | 0 | 0 | 41 |
| 8. 軽い運動でも、ひどく疲れてしまっていた      | 1  | 1 | 0 | 0 | 42 |
| 9. 風邪をひくと、いつも寝込むほどひどくなる     | 1  | 1 | 0 | 0 | 43 |
| 10. 小さな事にこだわりの強い            | 1  | 1 | 0 | 0 | 44 |
| 11. ちょっとしたことで心を傷つけられやすい     | 1  | 1 | 0 | 0 | 45 |
| 12. ちょっとしたことでひどく不安になる       | 1  | 1 | 0 | 0 | 46 |
| 13. ちょっとした失敗をずっと悔やんでしまう     | 1  | 1 | 0 | 0 | 47 |
| 14. 何事も悲観的に考えてしまう           | 1  | 1 | 0 | 0 | 48 |
| 15. 悪い通りにいかなないとカッとして抑えがなくなる | 1  | 1 | 0 | 0 | 49 |
| 16. 気分が落ち込み、やる気が起らない        | 1  | 1 | 0 | 0 | 50 |
| 17. 対人緊張が強く困っている            | 1  | 1 | 0 | 0 | 51 |
| 18. 友達作りがうまくできず、いつも孤独である    | 1  | 1 | 0 | 0 | 52 |
| 19. 悩みを相談できる友人がいた           | 1  | 1 | 0 | 0 | 53 |
| 20. 学校でイジメにあったことがある         | 1  | 1 | 0 | 0 | 54 |

- III. 次の病気であると病院などの医療機関で診断されたことがありますか?
- |  |    |   |   |   |    |
|--|----|---|---|---|----|
| 1. 喘息                                    | ハイ | イ | イ | エ | 55 |
| 2. アトピー性皮膚炎                              | 1  | 1 | 0 | 0 | 56 |
| 3. 1, 2以外のアレルギー疾患 (喘息アレルギーなど)            | 1  | 1 | 0 | 0 | 57 |
| 4. 肺結核                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 58 |
| 5. 心臓病                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 59 |
| 6. 高血圧                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 60 |
| 7. 低血圧                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 61 |
| 8. 糖尿病                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 62 |
| 9. 高コレステロール血症                            | 1  | 1 | 0 | 0 | 63 |
| 10. 甲状腺腫または甲状腺機能亢進症                      | 1  | 1 | 0 | 0 | 64 |
| 11. 胃・十二指腸潰瘍                             | 1  | 1 | 0 | 0 | 65 |
| 12. 肝炎                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 66 |
| 13. 自律神経失調症 (20歳以降)                      | 1  | 1 | 0 | 0 | 67 |
| 14. 学校の検尿で尿蛋白が尿潜血あった                     | 1  | 1 | 0 | 0 | 68 |
| 15. 腎臓の病気                                | 1  | 1 | 0 | 0 | 69 |
| 16. 貧血                                   | 1  | 1 | 0 | 0 | 70 |
| 17. てんかん                                 | 1  | 1 | 0 | 0 | 71 |
| 18. 発達障害                                 | 1  | 1 | 0 | 0 | 72 |
| 19. 神経衰弱・ノイローゼ                           | 1  | 1 | 0 | 0 | 73 |
| 20. 統合失調症・うつ病・心因疾患                       | 1  | 1 | 0 | 0 | 74 |
| 21. 摂食障害                                 | 1  | 1 | 0 | 0 | 75 |
| 22. 自殺未遂                                 | 1  | 1 | 0 | 0 | 76 |
| 23. 膠原病 (SLE, リウマチなど)                    | 1  | 1 | 0 | 0 | 77 |
| 24. 膠原病以外の難病                             | 1  | 1 | 0 | 0 | 78 |
| 25. 手術を要した病気 (病気の名前 ( ) )                | 1  | 1 | 0 | 0 | 79 |
| 26. 入院を要した病気 (手術以外) ( ) 歳頃               | 1  | 1 | 0 | 0 | 80 |
| 27. 肥満症 ( ) 歳頃                           | 1  | 1 | 0 | 0 | 81 |
| 28. (女性のみ) ひどい月経異常 (月経痛・月経不順・無月経) がありますか | 1  | 1 | 0 | 0 | 82 |

- IV. 家族に次の病気の人がいますか
- |               |    |   |   |   |    |
|---------------|----|---|---|---|----|
| 1. 高血圧        | ハイ | イ | イ | エ | 83 |
| 2. 糖尿病        | 1  | 1 | 0 | 0 | 84 |
| 3. 高コレステロール血症 | 1  | 1 | 0 | 0 | 85 |
| 4. 肥満症        | 1  | 1 | 0 | 0 | 86 |
| 5. 肝炎         | 1  | 1 | 0 | 0 | 87 |
- 母親
- |    |   |   |   |    |
|----|---|---|---|----|
| ハイ | イ | イ | エ | 88 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 88 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 89 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 90 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 91 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 92 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 93 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 94 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 95 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 96 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 97 |
- 父親
- |    |   |   |   |     |
|----|---|---|---|-----|
| ハイ | イ | イ | エ | 98  |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 98  |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 99  |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 100 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 101 |
- 兄弟 (姉妹)
- |    |   |   |   |     |
|----|---|---|---|-----|
| ハイ | イ | イ | エ | 102 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 102 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 103 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 104 |
| 1  | 1 | 0 | 0 | 105 |

- V. 健康科学センターでは、診療の他に心身の健康相談および健康教育を行っています
- 大学院での留学について現在やんでおり、相談したいという希望がありますか
  - 現在、心理的問題があり、専門家に相談したいですか
  - 現在、身体的問題があり、専門家に相談したいですか
  - 家族の病気について、専門家に相談したいですか
- VI. そのほか、入学後の以下のようなおことについて悩んでいますか  
 次の3つの回答のうち該当する番号を選んで右の ( ) にご記入下さい。
- はとんど不安はない
  - どうにかできそうと思う
  - 不安である
- 入学後の研究について心配がありますか ( ) 102
  - 指導教員との人間関係に不安がありますか ( ) 103
  - 研究室の他の学生との人間関係に不安がありますか ( ) 104
  - 大学院を卒業した後、将来について不安がありますか ( ) 105

※もう一度記入したものを現おして、記入もれなどがなければ確かめてください。

# 人 事 等 の 一 覧

教職員・兼任教員.....	49
非常勤講師.....	50
学 医.....	51
保健管理専門委員会名簿.....	52



教 職 員 (平成25年3月31日現在)

センター長 大 柿 哲 朗

副センター長 一 宮 厚

運動・スポーツ科学

健康医学・心理学

部門長	教 授	西村秀樹	スポーツ社会学	部門長	教 授	上園慶子	内科学・時間生物学
	教 授	大柿哲朗	運動生理学		教 授	山本和彦	内科学・時間生物学
	教 授	橋本公雄	スポーツ心理学		教 授	一宮 厚	神経精神医学
	教 授	熊谷秋三	健康・運動疫学		准教授	丸山 徹	内科学・循環器病学
	准教授	齊藤篤司	運動生化学		准教授	入江正洋	心身医学・産業医学
	准教授	山本教人	スポーツ社会学		准教授	永野 純	内科学・心身医学
	准教授	杉山佳生	スポーツ心理学		准教授	福盛英明	健康心理学・臨床心理学
	准教授	林 直亨	応用生理学		准教授	眞崎義徳	呼吸器内科学・健康科学・吸入性肺障害
	講 師	高柳茂美	スポーツ心理学		准教授	松下智子	臨床心理学

事務系職員

技術系職員

事務補佐員	高 原 由 紀 子	技術職員	松園美貴	保健師
事務補佐員	笹部澄恵	技術職員	戸田美紀子	保健師
事務補佐員	下川峰子	技術職員	野村桃子	保健師
事務補佐員	原 俊枝	技術補佐員	田中朋子	看護師
事務補佐員	安藤美紀	技術補佐員	荒川 令	保健師
事務補佐員	福川しのぶ	技術補佐員	竹下恵梨	保健師
事務補佐員	田川久美子	技術補佐員	濱田百合	保健師
		技術補佐員	山口祥子	保健師

兼任教員 (平成25年3月31日現在)

氏 名 所 属・職 名

吉 良 潤 一	大学院医学研究院・教授
鈴 木 孝 彦	情報基盤研究開発センター・准教授

非常勤講師（平成24年度）		
氏名	所属・職名	任期
<b>精神保健相談</b>		
平岡 健太郎	九州大学大学院医学系学府・大学院生	24.4.1～25.3.31
中尾 智博	九州大学病院精神科神経科・講師	24.4.1～25.3.31
<b>学生相談</b>		
佐々木 玲仁	九州大学人間環境学研究院・准教授	24.4.1～25.3.31
吉永 亮治	フリー	24.4.1～25.3.31
太田 あや乃	フリー	24.4.1～25.3.31
斎藤 明子	フリー	24.4.1～25.3.31
高野 尚子	福岡カウンセリングセンター・代表	24.4.1～25.3.31
中園 照美	フリー	24.4.1～25.3.31
<b>健康相談</b>		
三宅 典子		24.4.1～25.3.31
高嶋 秀一郎		24.4.1～25.3.31
吾郷 哲朗		24.4.1～25.3.31
伊原 栄吉		24.4.1～25.3.31
岡 孝和		24.4.1～25.3.31
立石 貴久		24.4.1～25.3.31
大井 啓司		24.4.1～25.3.31
濱田 直樹		24.4.1～25.3.31
大西 八郎		24.4.1～25.3.31
浅山 良樹		24.4.1～25.3.31
西江 昭弘		24.4.1～25.3.31
松尾 芳雄		24.4.1～25.3.31
石神 康生		24.4.1～25.3.31
大賀 才路		24.4.1～25.3.31
馬場 眞吾		24.4.1～25.3.31
樋渡 昭雄		24.4.1～25.3.31
牛島 泰宏		24.4.1～25.3.31
神谷 武志		24.4.1～25.3.31
山下 孝二		24.4.1～25.3.31
藪内 英剛		24.4.1～25.3.31
黒田 淳哉	九州大学病院第二科・助教	24.4.1～24.9.30
梅野 淳嗣	九州大学病院第二科・助教	24.10.1～25.3.31
笹栗 俊之	九州大学医学研究院・教授	24.4.1～25.3.31
馬場園 明	九州大学医学研究院・教授	24.4.1～25.3.31
桑原 一彰	九州大学医学研究院・准教授	24.4.1～25.3.31
山本 紀子	九州大学病院第三内科（フリー）	24.4.1～25.3.31
古川 智一	九州大学病院心療内科・助教	24.4.1～25.3.31
高倉 修	九州大学病院心療内科・助教	24.4.1～25.3.31
尾前 豪	今津赤十字病院・内科部長	24.4.1～25.3.31
佐々木 悠	フリー	24.4.1～25.3.31

## 平成24年度九州大学学医一覽

平成24年4月1日現在

診療科目名	医師氏名	任期開始年月日	新患日	再来日	外来電話	備考
九州大学病院 内科	堀内孝彦	17年10月 1日	月～金	月～金	5302	救命救急センター 642-5871
	岩瀬正典	20年 4月 1日				
	伊藤鉄英	21年 4月 1日				
心療内科	岡 孝和	20年 6月 1日	月・木	火・水・金	5335	
神経内科	立石貴久	23年 4月 1日	火・木・金	月・水	5349	
循環器内科	井手友美	23年 4月 1日	月～木	月・水	5371	
産科婦人科	小林裕明	21年 4月 1日	月～金(予約制)	月～金	5409	
第一外科	永井英司	20年 4月 1日	火・木	火・木	5453	
第二外科	調 憲	24年 4月 1日	月・水・金	月・水・金	5479	
整形外科	福士純一	24年 4月 1日	月・水・金	金	5504	
脳神経外科	溝口昌弘	21年 4月 1日	月・水・金	月・水・金	5533	
心臓血管外科	田ノ上禎久	24年 6月 1日	月・水・木	水・木	5565	
皮膚科	師井洋一	18年 4月 1日	月・水・金	火・木	5597	
泌尿器科	横溝 晃	19年 4月 1日	火・木	月・水・金	5615	
精神科神経科	川 寄 弘 詔	19年10月 1日	火・木	月～金	5640	
眼 科	武田篤信	24年 4月 1日	月・水・金	月～金	5660	
耳鼻咽喉科	松本 希	21年 4月 1日	火・木	月・水・金	5681	
放射線科	西江昭弘	24年 4月 1日	月・水・金	月～金	5705	
放射線部	中村和正	17年 10月1日				
総合診療科	林 純	3年 7月 1日	月～金	月～金	5300	
九州大学病院(歯科医療センター)			月～金	月～金	6430	
口腔機能修復科 (歯内治療科)	吉嶺嘉人	20年 8月 1日				
口腔機能修復科 (咬合補綴科)	坂井貴子	18年 4月 1日				
口腔機能修復科 (義歯補綴科)	築山能大	19年 4月 1日				
口腔顎顔面外科 (顎口腔外科)	大部一成	17年10月 1日			6445	

### 受付時間

新 患	8:30～11:00(窓口受付)
再 来	8:20～17:00(窓口受付) 8:15～17:00(自動再来受付機)

別紙

## 保健管理専門委員会委員名簿

(平成24年4月1日現在)

地区別等	所属部局	職名	氏名	任期
委員長	健康科学センター長	教授	熊谷 秋三	
箱崎文系地区	教育学部	教授	加藤 和生	平成25. 3. 31
箱崎理系地区	留学生センター	准教授	高松 里	平成25. 3. 31
病院地区	大学院医学系学府	教授	小田 義直	平成25. 3. 31
筑紫地区	健康科学センター	准教授	眞崎 義憲	平成25. 3. 31
大橋地区	芸術工学部	准教授	牛尼 剛聡	平成25. 3. 31
伊都地区	大学院数理学府	教授	勝田 篤	平成25. 3. 31
基幹教育院	基幹教育院	教授	福留 留美	平成25. 3. 31
九州大学病院	九州大学病院	准教授	古庄 憲浩	平成25. 3. 31
健康科学センター	健康科学センター	准教授	福盛 英明	平成26. 3. 31
	学務部長		江島 定人	
	筑紫地区事務部長		武井 秀仁	